

ハイユニは世界ではじめてのミクロのシンです。三菱鉛筆の85年の歴史と技術がみのり、あらゆるテストに驚くほどよい結果がでました。黒く、濃くきれいに書け、書きべりもしません。発売してから3年ー専門家から学童まで多くの人に愛用されています。



ハイ-ユニ

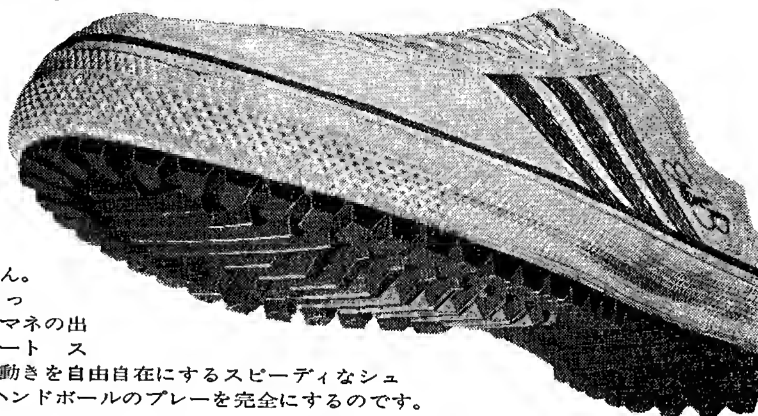
9H→6B·17硬度/1ダース1200円 1本100円

三菱鉛筆

三菱鉛筆株式会社

多角的な動きを
軽快に　鋭く……

Onitsuka Tiger



ハンドボールシューズならタイガー印です——

ハンドボール専用のシューズといえばタイガー印をおいてほかにありません。軽くて適度な弾力性をもった特殊成型底は　ほかでマネの出来ない《技術》です。スタート　ストップ　そして多角的な動きを自由自在にするスピーディなシューズ。この シューズがハンドボールのプレーを完全にするのです。

白地にオリンピックライン　☆22.5～27.0cm ¥1.100

タイガー ハンドボール シューズ

オニツカ株式会社 本社／神戸市須磨局寺田町3～1 支店／神戸・大阪・東京

日本、アジア地域予選へ出場

～ミュンヘン・オリンピック～

日本はミュンヘン・オリンピック（昭和47年8月）出場をかけて韓国、イスラエルとアジア地域予選を行うことになった──。

9月18日からスペインのマドリッドで開かれた第13回国際ハンドボール連盟（IHF）総会で決定したもので、日本協会はただちに対韓国、対イスラエルへの強化策をねる一方、同予選の日本開催についても検討することになった。

ミュンヘン・オリンピックのハンドボール競技は16ケ国（男子のみ）で実施されるが、その出場国については、IHFではすでに今春フランスで開かれた第7回世界男子7人制選手権の上位8ケ国に代表権を与えており、残り八つの座をいかにして埋めるか注目されていた。

今総会では、この議題の行方が最大の焦点となっていたがIHF技術委から提出された各大陸別に残りの代表を選ぶという案が、〝五輪の精神〟にのっとるものとして多くの支持を得た。同時に

ヨーロッパ大陸……5ケ国
アジア大陸…………1ケ国
アフリカ大陸………1ケ国
アメリカ大陸………1ケ国

という数字がIHF技術委から示され、実力的にも、IHF加盟国数の面でも妥当な線として可決された。

この報せをうけた日本協会筋では、いちおう「無条件出場」という情報もあっただけに意外とする声も聞かれたが、大方は〝予選必至〟と推測していただめ「まず順当」「望むところ」「予選に勝って堂々出場権を得るべきだ」と歓迎する態度を見せている。

試合方法は、3ケ国が2回戦制の総当り（リーグ戦）、原則として「ホーム・アンド・アウェイ」（互いの国に遠征しあう方法）だ。

期日は47年3月までに終了させるという規定だけで、具体的な日程は各大陸に一任された形だが、アジア予選は来年の下半期（7月～12月）とみられる。

【関連記事、2・3頁に】

時評

別掲のとおり日本は注目のミュンヘン・オリンピック予選で、IHF総会の決定にもとずきアジア地域に出場、韓国、イスラエルとともに〝一つの座〟をめぐって争うこととなった。

予選への展望などは別項にゆずるとして、IHFがオリンピックの精神に基いて各大陸における活動を重視したことは、これまでともすればヨーロッパ中心だっただけに注目してよいものがあろう。

IHFでは、これまでも〝大陸〟という単位を認めてはいたが、（＝IHF世界選手権大会規程）かなり流動的に扱われており今春の世界選手権の地域予選でアフリカ大陸が無視されてモロッコが大会（予選）をボイコットしたことや、アメリカ大陸代表となったカナダが経済的理由で出場辞退するとすぐにスペインを繰りあげ出場させようとし、アメリカから抗議をうけスペインの参加を撤回したなどの事態は記憶に新しい。

オリンピックをきっかけにIHFが各大陸の存在をはっきりさせたことは当然といえば当然だが、大いに歓迎すべきだろう。

ところで、そうなると各大陸とりわけアジアの盟主として自他ともに許す日本の立ち場は「責任重大」である。

韓国にしても、イスラエルにしても、世界選手権へ連続出場している日本に一目をおいており、韓国も、今回仮加盟国になった台湾も日本が中心となった「アジア・ハンドボール連盟」の発足を強く希望している。

卒直にいって同連盟結成に対する情熱と態勢は日本がいちばん立ち遅れている。韓国はこの問題を協議するのならばすぐにでも代表を送るといっているし、発足5年にしかならぬ台湾はホンコンをはじめ東南アジア諸国への普及に早くも手をつけはじめている。

日本協会・荒川理事長も「今回のオリンピック予選が一つのチャンス」とみて、日本側の意向をまとめることをほのめかしているが早急に手を打つべきだ。

各大陸にIHF直属のコミッションを置くことは昨年の国際審判員講習会でも話題となっており、アジアにおいてもその機は完全に熟している。

この問題を善処できなければ日本はアジアの盟主という看板をおろさなければなるまい。（X）

「ハンドボール」10月号（第80号）目次

表紙写真　前半14分東軍・植田巧みなシュート決める。全日本学生選抜東西対抗より（9月6日・名古屋）＝朝日新聞社提供＝

ミュンヘン・オリンピックアジア地域予選

日本、韓国・イスラエルと対戦

総当り2回戦

全試合、日本開催の可能性も

〔1頁参照〕日本がアジア地域予選で韓国、イスラエルと2回戦総当り法で顔を合わせることになったニュースは、オリンピック候補選手の間にもすぐに広がったが、その受けとりかたはまちまち。特にイスラエルのアジア地域転入は意外な感じが強いようだ。

『ともかく、これで落ち着くことができますよ』というのは村田弘オリンピック対策部長（前世界選手権監督）。

それというのも、「日本にアジア代表権を自動的に与える」にはじまって出場国の選考については諸説が乱れとび、不安のまま強化対策を推進して来た事情があるからだ。

今春の世界選手権直後、一部に流れた「日本の無条件出場」説もその時点ではたしかにそうした意向がIHF筋にあったようだが、消息筋は一貫して「予選はさけられない」とみていた。IHF総会の決定はまず妥当の線といってよいだろう。

IHFとしても、この機会にハンドボールを全世界的なスポーツに成長させ、オリンピック種目への定着を願っており、そのためには競技の普及がヨーロッパに片寄りすぎている現状を一日も早く脱し、各大陸、各地域にまんべんなく広げさせる必要がある。

今回のIHF総会にはスペイン協会から全世界を「一区」とした予選案（プレ・オリンピックトーナメント）が提出されかなり有力と伝えられていた。それが、オリンピック精神に則った大陸単位の地域予選というIHF技術委員会案採用に落ち着いたのも、そうした事情の説得が総会のムードを支配したからだ。

勝算抱くイスラエル

アジア地域にイスラエルが転入して来たのは日本協会関係者のほとんどが予期せぬこととといった表情である。しかも、これはイスラエルの積極的な働きかけではなくIHFの決定なのだ。

アジア地域でハンドボールを実施しているのは日本、韓国、台湾、中共、北朝鮮（朝鮮民主々義人民共和国）の5ケ国。このほかの数ケ国にめばえはあるがこのうち、IHF加盟国（正会員）は日本と韓国だけなので、オリンピック予選も当然両国によるものとみられていた。西アジアのイスラエルはこれまでの世界選手権同ようヨーロッパ地域に参加するだろうと推測された。しかし、イスラエルはアジア競技連盟（AGF）のメンバー。IHFはこれまでが特例だとしてイスラエルのアジア転籍をこの機に一気に決めたものだ。

イスラエルもはじめは〝アジア入り〟に難色を示したようだが強国の並んだヨーロッパ地域をさけて、勝算のあるアジアに初登場するのもマイナスな話ではない。今

ミュンヘンオリンピック

▼出場決定国（8）
ルーマニア，東ドイツ，ユーゴ，デンマーク，西ドイツ，スウェーデン，チエコ，ハンガリー

▼予選地域と予想される主な参加国

▽アジア地域（代表数1）
日本，韓国，イスラエル＝以上参加決定

▽ヨーロッパ地域（代表数5）
ソビエト，アイスランド，フランス，ノルウェー，ポーランド，スイス，スペイン，オランダ

▽アフリカ地域（代表数1）
アラブ連合，モロッコ，チュニジア

▽アメリカ地域（代表数1）
アメリカ，カナダ，ブラジル，メキシコ

これまでの交流

日　本――韓　国

昭36. 10	※日体大遠征	6戦全勝
昭38. 6	韓国学生選抜来日	4勝3敗1分
昭44. 7	日体大遠征	4勝2敗
昭45. 7	成均館大来日	2勝3敗

日　本――イスラエル

昭36. 4	※全日本	○16―15	イスラエル選抜
〃	※全日本	○23―8	全ハポエル
〃	※全日本	○22―6	マカビ
昭39. 3	全日本	○20―16	イスラエルナショナル
〃	全日本	●11―13	イスラエルナショナル
昭45. 3	全日本	△10―10	イスラエルナショナル
〃	全日本	○17―6	イスラエルナショナル

（注）・韓国ナショナルとの対戦は1試合もなし
・高校の交流記録は省略
・※印は11人制

春世界選手権の帰途立ち寄った〃世界10位〃の日本と引き分け（10—10）た自信もある。

国際的にはこれまで実績らしいものをあげていないが、同国ではサッカーにつぐ人気スポーツ。東京オリンピックの聖火が同国に立ち寄った時に開かれた記念競技会ではその一種目としてハンドボールが実施されたほどだ。選手強化も着々と進んでいるようで手強い

韓国も意気さかん
日本開催、いくつかの課題

韓国の意気ごみもさかんだ。日本との交流で腕をみがき、その上に先天的なボールゲームセンスを加えている。西ドイツからコーチを招いて指導を受けているというナショナルチームがベールのむこうからいっこうに姿を現わさないのも無気味で、ある消息通は『実力的に優位とはいうものの粘りのある韓国、イスラエルに当たるより、全世界一区でタイプの判った欧米チームと対戦したほうがよかったかも知れない』と云っている

11月には初の社会人交流として全日本実業団4位の住友化学菊本（愛媛）が遠征するが（15頁参照）オリンピック予選の帰すうを占う一つのカギになるのではなかろうか。

ところで、日本協会ではこの予選会全6戦が日本で開催される可能性もあるとみている。

情報によると韓国、イスラエルともＩＨＦによって規定された40M×20Mの室内コートがないという理由からである。

また、各国を訪れあうホーム・アンド・アウェイでは日本—韓国間はともかくイスラエルとの間は遠く、たがいに渡航費がかさむ。一堂に集り、開催国が慣習にもとずいて滞在費を負担すればかなり楽になる。しかし各国とも経済的条件が好転するのは歓迎しても、遠征の不利はできるだけさけたいところだろう。

また、国内態勢にもいくつかの課題がある。総務企画部の案では総額九百万円の経費が必要でその裏付けをどうするかがなかでも大きい。史上初の大目標達成をわれわれの目の前で、と願うのは大それた夢だろうか——。

〃執念に優るものを〃

ある程度は予想されたような結果となったが、イスラエルがアジアからというのは、やはりオリンピックと大陸ということであろうか、組み合せを見て、これはというう感じを抱いたのは筆者だけだろうか。

韓国、イスラエルとも、これまでに全く対戦したことのない国という訳ではないが、ここ一番という試合は全くやったことはない。両国とも新しい国家であり、種々の情勢から、国内はナショナリズムでこりかたまっていることがいろいろの方面から充分に考えられる。

このような国の選手というのは〃本番〃には予想もできない試合運びを往々するものである。〃根性〃というか〃執念〃というか、とにかく、勝つということに全てを傾けてくるのだ。

日本チームがそういうものにかけているという気は毛頭ない。しかし、昭和元禄とやらで、泰平ムードにひたっている国民性と準戦時下のピリピリした国民との間の国民感情の差、これからくる勝つと云うことに対する執念の間にはやはり、大きな差があると云ってもいいと思う。ましてや互いのホームコートで1試合づつとなれば乗りこみの試合は苦戦を覚悟しなければなるまい。

現在の全日本の戦力からすれば両国とも負ける相手ではない。しかし、大差をつけて勝てる相手ではない。

執念に優るものをもった全日本を作らないとミュヘンへの道は遠いものになってしまうと思う。

藤本　強
（本誌編集長）

〃予選方法で激論〃
渡辺副会長が帰国

ＩＨＦ総会に出席した日本協会渡辺和美副会長は9月28日午後7時14分羽田着の日航機で帰国、空港ロビーで主としてオリンピック予選問題に関し次のように語った

『予選の方法については総会前の予備会議でも各種の提案が出されて激論、中央・南ヨーロッパ諸国が17日深夜に秘密会議を開くなど、各国の裏面での動きも活発で問題の重大さが知れた。34ケ国が出席した総会でもなかなか結論がでず、採決ということになり、結局ＩＨＦ技術委案が18対2、白紙6（すでに出場権獲得の8ケ国は無投票）で支持された。アジア予選はそれぞれの国を往来して行うべきが本筋で、一国に集って開催するかどうかは、あくまで今後の三ケ国による話し合いにかかる。審判員はＩＨＦ技術委員会によってヨーロッパから派遣されてくるだろう。各国の日本への評価は高く世界選手権で10位となったことに敬意を払ってくれている。女子の世界選手権は46年12月・オランダに決まったが、ルーマニアとユーゴが大会前日本チームに立ち寄って欲しいといっていた。

スウェーデン男子ナショナルチームの来日は来年9月1日から3週間7試合に決まった。なお、台湾の仮加盟が正式に承認された』

第25回国体展望

第25回国体ハンドボール競技は10月10日から15日まで岩手県盛岡市で行われる。各部門の有力チームを探ってみよう。一般男子には7人のオリンピック候補が登場する。府県別の得点争いは総合では埼玉・大阪・岩手・東京・熊本・愛媛、女子では熊本・大阪・岩手らが有力のようだ。（編集部）

——10月10日から盛岡市で——

新居浜工追う中大附、大阪

高校男子（10チーム）組み合せの結果、単独4チームが一サイドに固まった。

しかもインター・ハイ（8月、彦根市）優勝の新居浜工（愛媛）と有力候補中大附属（東京）が順当なら2回戦で顔を合はす。

二冠を狙う新居浜工は韓国遠征で調子を乱したが、いまは完全に復調、喜井、曽我部、GK塩田らを中心として自信にあふれた攻守を見せるだろう。スピード豊かな攻撃は特にみごとだ。

中大附属は都会チームらしい洗れんされたチームプレーが身上。上村、清水、松下らによる攻撃陣はポスト、ミドルの使い分けも巧く多彩である。両校はインター・ハイでは準々決勝で対戦、13－12で新居浜工が勝っているが、今回も大激戦となろう。

両校を追うのは大阪選抜か。インター・ハイ2位の枚方から入江松本、GK藤井ら7人と180 cmの長身・楠田（池田）などでスケールの大きい布陣。混成の欠点さえのぞかねば優勝も充分に望めよう。

ダークホースは全岩手、福岡選抜、全静岡あたりだろう。

盛岡高、盛岡一、盛岡四の三校から精鋭を集めた全岩手は地元でもあり練習量は充分。

福岡選抜は寺西らの小倉工勢が中心。2度目の優勝を目ざす全静岡は4校からのピックアップで激戦の東海予選を勝ち抜いて来ている。

最大の波乱がおきるとすれば全秋田の進出だろう。184 cmの由利のほか菅野、阿部を中心とした湯沢高勢に佐々木（大曲）を補強、まとまりがある。中大附も楽観は許せない。

インター・ハイ代表を押しのけて出場する岩国工（山口）×函館有斗（北海道）は好勝負を演じようが準々決勝はブがわるい。

富山選抜は氷見、小杉の連合だが迫力に欠ける。

注目される茨城選抜
連勝狙う新居浜市商

高校女子（11チーム）過去2年は、単独校が優勝、しかも菊池農（熊本＝43年）、新居浜市商（愛媛＝44年）とインター・ハイ優勝校がダブル・クラウンである。

今年は水海道二（茨城）が単独出場を採らず、選抜編成が8チームとこれまで最高の数だ。選抜軍が制勝するようだと女子も混成を採る県がいっそう増えてこよう。

さて、本命はやはり茨城選抜と2連勝を狙う新居浜市商だ。

茨城選抜は水海道二の優勝レギュラーGK渡辺、富山、谷沢（竜）谷沢（節）ら7人に麻生2、鉾田二、笠間各1が補充されているシュート力のある水海道勢を軸に攻撃力は高い。

新居浜市商は夏の大会準決勝で水海道二に敗れているだけに雪じょくの意気にもえている。曽我部森実、GK岩崎と攻守の要が健在で両チームの対決となれば大いにもつれよう。

対抗は全大阪－広島選抜の勝者北海道、全岩手あたりだろう。

全大阪は、近畿ナンバー・ワンの大谷の主力6人に165 cmの諏訪（清友）ら5校から有力プレイヤーを加えている。広島選抜も強そうだ。山陽女、第一女商の連合軍だが、169 cmの村上、松岡（山陽女）らの攻撃力は一流。甲乙つけがたい布陣だ。

北海道は室蘭商に室蘭清水丘、登別から各1名を補っての登場、花巻農中心の地元・全岩手とは白熱するだろう。

ダークホースは熊本選抜。熊本市高の9人に九州学院から2人を迎え、九州予選では前評判の高かった長崎、佐賀代表らを破った。新居浜市商を倒すようだと余勢をかいそうだ。長野選抜、小禄（沖縄）、涌谷（宮城）はまとまりはよいが攻守のスケールで上位進出は苦しいようである。

高校男子

新居浜工（愛媛）
全秋田
中大附属（東京）
岩国工（山口）
函館有斗（北海道）
全岩手
富山選抜
福岡選抜
全静岡
大阪選抜

高校女子

茨城選抜
小禄（沖縄）
岐阜選抜
北海道
長野選抜
全岩手
全大阪
広島選抜
涌谷（宮城）
熊本選抜
新居浜市商（愛媛）

ワクナガ、雪じよくなるか
10連勝めざす大崎電気

一般男子（30チーム）　大崎電気（埼玉）とワクナガ薬品（大阪）の争覇とみる声が圧倒的。両者は8月の全日本総合決勝で顔が合い延長の末14—12で大崎が勝っている。

大崎は近森が渡独したため欠けるがGK下里、近藤、東のオリンピック候補を攻守の要に旗野、西村の両ベテランのほか谷口、林、沢田、佐藤ら若手も腕をあげスキのない布陣だ。

ワクナガの顔ぶれも豪華である木野、早川の両オリンピック候補に市原、森、高橋、戸田という攻撃陣は大崎を上廻るものがある。力（パワー）と技の使い分けも巧みで全日本の雪じょくに斗志満々という。

これまで大崎の独走（注・第16回大会から9年連続優勝）でいささか興味のうすれていた優勝争いがワクナガの登場でにわかに面白くなった。両者を追ってベストエイトに進むのは全愛知、東京スターズ、常盤工業（岐阜）、本田技研(三重）全岩手、全神奈川あたりだろう。

全愛知、東京スターズは特に注目される。全愛知は野田、藤中（いずれも大同製鋼オリンピック候補）に戸谷、加藤GK柳川の大同勢、松浦（桜丘会）、安藤（中京ク）らを揃えている。大崎戦の勝利にも秘策をたててぶつかるとみられ、最大のダークホースだ。

東京スターズは大西、高野、藤原GK綿貫らの東京教員の主力を中心に都予選では前回2位の三景を破っている。山田、高橋、GK渡辺らの常盤工業とは大激戦を演じよう。心配なのは持ち駒不足なことと1回戦の富士レンジ（兵庫）が油断のできぬ相手なこと。

このほかでは、住友化学菊本（愛媛）、日新製鋼呉（広島）、丸善石油（和歌山）、千代田印刷機製造（千葉）の実業団群、熊本ク、全福岡、氷見ク（富山）、田原外郎ク（山口）、奈良クらのクラブ勢が強力である。田原外郎ク×奈良クは1回戦屈指の好カードとみられ中川、広井、皆本ら下関中央工OBが要所をしめ、奈良クは鳥井が相変らずシャープなプレーを見せ、得点力がある。

関東選手権2位の光電工業（群馬）、唯一の自衛隊チーム・海上鹿屋（鹿児島）も攻守のバランスがとれた好チームだが1回戦の相手が手強い。鹿児島は全岩手を降せば一気にベストエイトまで突走るだろう。

今年は実業団が13チーム（青森マツダクを含む）とこれまでにない数を占めた。緒戦で顔の合う日新製鋼呉（広島）、北陸電力（福井）なども着実に成長。そうしたなかで京都ク、函館青雲ク、下北手ク、高松ク、金沢市民ク、東根球友会といった愛好者の集りが名を連ねているのは嬉しい。初出場の金沢市民クなどいかにも国体にふさわしいチームではないか。クラブ勢の意気を大いに示して欲しい。

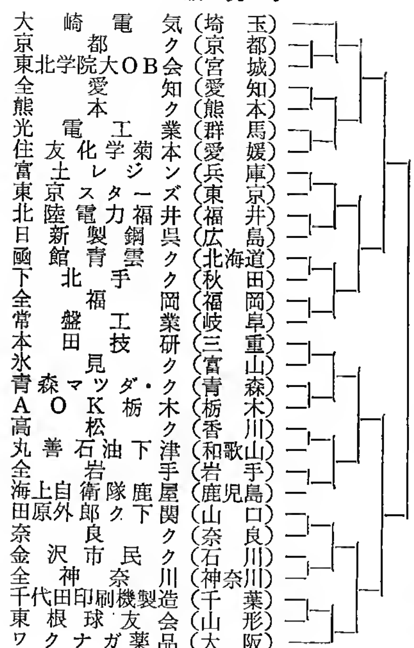
動くまい大洋の3連勝

一般女子（12チーム）　優勝争いは10年つづけて実業団同士になるだろう。それも大洋デパート（熊本）の2年連続4冠王を狙う快進撃が焦点だ。

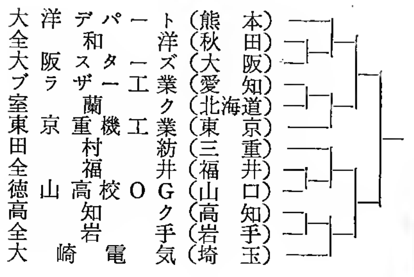
大洋の準決勝の相手はおそらく東京重機（東京）、決勝は大崎電気（埼玉）か田村紡（三重）。全日本総合を見たかぎりでは「ストップ・ザ・大洋」はどこも難しい。

垂水、渡辺、島田、米、三宅、枝尾、GK小原と国内最高のメンバーを揃えテクニック・体力とも抜群。小林、村中、蔵田ら後続メンバーも成長しており、よほどのことがないかぎり大洋の3連勝は動かないと思う。

一般男子



一般女子



波乱がおきるとすれば東京重機戦だろう。全日本総合では各チームのなかで内容的にはいちばん大洋に食い下っている。牧野、滝口鷲谷、村上、市塚らがフルに動けば勝機がないとはいえない。大洋の厚味のある攻撃陣をいかに封じこむか、ディフエンスのできが大きなカギだ。

その重機もブラザー工業（愛知）戦は気を抜けない。ブラザーの朝倉、中野、五十嵐、藤浪らを中心とした攻守はAクラス。横地監督も「きっかけさえつかめば…」といっており、この大会は一つのチャンスである。

大崎×田村紡はわずかだが大崎にブがある。守備力は互角。ポイントは攻撃力となろう。大崎の木幡、三浦、寺尾、新島、佐藤に対して、田村紡の渡辺信、三毛、若林、金田、久保田、辻。両チームともプレーに決定的なものがなく一つ調子を乱すと一気に崩れる不安を残すが、動きの点で大崎が上廻るだろう。

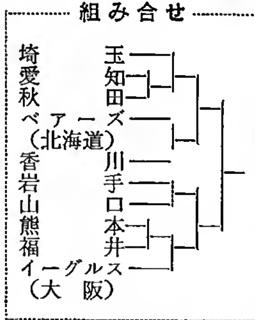
いずれにせよ、大洋デパートの独走（注・一昨年の国体以来八つの全国大会に連続優勝）を阻むのは、実業団しかない。捨て身の斗志を期待しておこう。ところで今年は一般クラブが7チーム出場し1回戦で3カードが組まれている実力的には強化を重ねて来た全岩手がいちばんのようだ。熊谷、八重樫、高橋に中島、GK坂野の東女体大コンビが加るのは大きい。

四たび埼玉――大阪か

教員（10チーム） シードされた埼玉教員と大阪イーグルスが今年も強い。両者の決勝となれば第22回（昭42）以来4年連続のこと。

大阪に5連勝の野望があれば、埼玉には全日本教職員優勝と合わせた二冠独占という悲願がある。

8月の全日本教職員（四日市）では準決勝で対戦、延長の末、19―17で埼玉が勝っている。



埼玉はGK高橋、北井、高田、金子、上久保、結城らが健在のうえ、河住がすっかり迫力を増した

大阪イーグルスは福井、樫塚、松尾を得点源にしてベテランの東井上、青木、北岡、GK島崎らが相変らず巧妙なプレーを見せている。まったく互角のチーム力だけに予断は許さない。

両者を追うのは岩手、愛知、熊本だろう。このほか前回4位の福井や、秋田大OBによる秋田、初出場の北海道ベアーズも上位をうかがっている。山口OBで固めた山口のメンバーには横瀬、常田のなつかしい顔が並ぶ。

教員界は、一部のチームを除いては平均年令も高く、最上位は固定化してしまった印象が強いが、埼玉、大阪の壁を破るチームの進出を待望したい。

国体地域予選決勝記録

代表決定リーグ以外はいずれも勝者が代表

○…北海道…○

▽高校男子
函館有斗 15―6 函館大谷
▽同女子
室蘭商 13―4 登別
（注）室蘭商を中心に「北海道」チームを編成
▽一般男子
函館青雲ク 28―16 函館工OB
▽同女子
室蘭ク 15―8 函館ク
▽教員
北海道ベアーズ 25―15 北海道教員ク

○…東北…○

▽高校男子
全秋田 15―10 全山形
▽同女子
涌谷（宮城） 18―7 全福島
▽一般男子代表決定リーグ
東北学院大OB（宮城） 21―15 福島SGク（福島）
青森マツダク（青森） 20―12 東根球友会（山形）
下北手ク（秋田） 14―10 東根球友会
東北学院大OB 13―12 青森マツダ・ク
下北手ク 19―13 福島SGク
東北学院大OB 29―11 東根球友会
青森マツダ・ク 18―14 福島SGク
東根球友会 14―11 福島SGク
青森マツダ・ク 24―16 下北手ク
東北学院大OB 17―13 下北手ク
東北学院大OB、青森マツダク下北手ク、東根球友会が代表
▽同女子代表決定リーグ
全和洋（秋田） 17―7 仙台ク（宮城）
東北宗形製作所（福島） 15―9 仙台ク
全和洋 8―7 東北宗形製作所
全秋田和洋が代表
▽教員
秋田 16―15 福島

○…関東…○

▽高校男子
中大附属（東京） 19―15 全神奈川
▽同女子
茨城選抜 11―10 深谷女（埼玉）
▽一般男子第1～4代表決定戦

大崎電気（埼玉） 17—11 東京スターズ（東京）

全神奈川 23—22 AOK栃木（栃木）

光電工業（群馬） 18—14 塩山ク（山梨）

千代田印刷機製造（千葉） 18—13 日立製作所（茨城）

▽同第5・6代表決定戦

AOK栃木 36—14 塩山ク

東京スターズ 29—22 日立製作所

▽同女子第1・2代表決定戦

東京重機（東京） 15—4 日本ビクター（茨城）

大崎電気（埼玉） 40—0 佐原女子ク（千葉）

▽教員

埼玉 39—10 群馬

○…北信越…○

▽高校男子

富山選抜 13—11 石川選抜

▽同女子

長野選抜 8—5 富山選抜

▽一般男子第1・2代表決定戦

氷見ク（富山） 13—12 北農ク（長野）

金沢市民ク（石川） 27—9 北陸電力（福井）

▽同第3代表決定リーグ

北陸電力 21—12 柏崎ク（新潟）

北陸電力 25—11 北農ク

柏崎ク×北農ク戦は行わず。

北陸電力が代表

▽同女子

福井女子ク（福井） 7—5 常盤ク（新潟）

▽教員

福井 28—11 富山

○…東海…○

▽高校男子

全静岡 13—10 岐阜選抜

▽同女子

岐阜選抜 5—3 全愛知

▽一般男子第1・第2代表決定戦

全愛知 25—11 本田技研（三重）

常盤工業（岐阜） 17—12 清商ク（静岡）

▽同第3代表決定戦

本田技研 13—7 清商ク

▽同女子田村紡（三重）、ブラザー工業（愛知）が代表に決定。記録は、本誌31頁参照。

▽教員

愛知 15—11 静岡

○…近畿…○

▽高校男子

大阪選抜 18—16 兵庫選抜

▽同女子

全大阪 5—2 兵庫選抜

▽一般男子第1〜第3代表決定戦

京都ク（京都） 24—12 八幡工OB（滋賀）

丸善石油（和歌山） 23—15 富士レジン（兵庫）

ワクナガ薬品（大阪） 29—12 奈良ク

▽同第4・第5代表決定リーグ

富士レジン 22—12 八幡工OB

奈良ク 22—8 八幡工OB

富士レジン×奈良クは行わず。

富士レジンと奈良クが代表

▽同女子

大阪スターズ（大阪） 13—4 京都クラブ（京都）

▽教員

大阪イーグルス（大阪） 20—15 和歌山

○…中国…○

▽高校男子

岩国工（山口） 23—15 岡山選抜

▽同女子

広島選抜 11—4 徳山（山口）

▽一般男子第1・2代表決定戦

田原外郎ク（山口） 32—8 全倉敷（岡山）

日新製鋼呉（広島） 12—11 境港市役所（島根）

▽同女子

徳山高OG（山口） 21—10 岡山ク（岡山）

▽教員

山口 14—13 岡山

○…四国…○

▽高校男子

新居浜工（愛媛） 25—8 高松工芸（香川）

▽同女子

新居浜市商（愛媛） 10—3 池田（徳島）

▽一般男子代表決定リーグ

住友化学菊本（愛媛） 35—10 高松ク（香川）

高松ク 21—8 高知ク（高知）

住友化学菊本 29—12 高知ク

住友化学菊本と高松クが代表

▽同女子

高知ク（高知） 17—7 三本松OG（香川）

▽教員

香川 不戦勝 愛媛

○…九州…○

▽高校男子

福岡選抜 11—7 熊本選抜

▽同女子

熊本女（熊本） 10—5 佐世保商（長崎）

▽一般男子代表決定リーグ

海上自衛隊（鹿児島） 21—16 全福岡

昭電ク（大分） 20—18 佐世保ク（長崎）

熊本ク（熊本） 26—13 海上自衛隊鹿屋

全福岡 24—20 佐世保ク

熊本ク 23—9 昭電ク

海上自衛隊鹿屋 18—16 佐世保ク

全福岡 16—12 昭電ク

佐世保ク 16—15 熊本ク

海上自衛隊鹿屋 20—14 昭電ク

熊本ク 22—17 全福岡

熊本ク、海上自衛隊鹿屋、全福岡が代表

▽同女子

大洋デパート（熊本） 22—4 鹿児島ク（鹿児島）

▽教員

熊本 17—16 大分

男女とも東軍が快勝

学生界のトップスターによる第20回（女子第2回）全日本学生選抜東西対抗戦は、9月6日午後1時から名古屋市の愛知県体育館におよそ三千のファンを集めて行われた。

男女とも積極的な攻撃を見せた東軍が終始西軍を圧倒して昨年の雪じょくをとげた。通算成績は男子が東軍の12勝8敗、女子は1勝1敗となった。【観戦記・横井保信＝東海学連副審判長、中京大監督】

☆全日本学生選抜東西対抗戦☆

光る坂野（東軍）の堅守

第1試合・女子対抗戦は午後1時40分から西軍のスロー・オフで開始。

東軍 11（6－1、5－2）3 西軍

得	【東軍】		【西軍】	得
0	坂野（東女体大）	GK	北岡（中京女大）	0
0	高嶋（日体大）	FP	辻（甲子園大）	1
4	永田（日体大）	FP	吉開（甲子園大）	0
2	小貫（日体大）	FP	中本（甲子園大）	0
1	高橋（東女体大）	FP	森崎（大阪体大）	0
1	堀江（東女体大）	FP	安田（中京大）	0
1	嶋田（日体大）	FP	石山（中京大）	0
11				3
	（1）	7MT	（1）	

審判・西川、河野



東軍永田のシュート決まる＝毎日新聞社提供

◇交代選手【東軍】▽FP木村（日体大）得2、福田（日体大）得0、中島（東女体大）得0、水上（東女体大）得0、韮沢（東教大）得0 海野（日女体大）得0、加藤（東京学芸大）得0、【西軍】▽GK柿田（甲子園大）得0▽FP篠原（甲子園大）得0、和歌（甲子園大）得0、野口（中京大）得1、大坪（中京女大）得0、近藤（中京女大）得1、大崎（中京女大）得1、加村（大阪教大）得0

【観戦記】東軍は永田（日体大）を攻守の軸にして日体大、東女体大の主力が鮮やかなコンビネーションプレーで着々と加点ディフェンスでも反則すれすれの激しい当りで相手の攻撃を封じ、その上GK坂野（東女体大）が絶好なプレーを見せ鮮やかに昨年の雪じょくを遂げた。

東軍攻撃の口火は4分高橋（東女体大）が左サイドから放ったシュート。さらに9分、10分速攻から堀江（東女体大）、小貫（日体大）がゲット3－0と先制した。

〇……西軍は活躍が期待されていた甲子園大のエース・岩井が負傷のため欠場、昨年、勝利の原動力となった安田（中京大）にボールを集めて反撃の機会を狙ったものの小さなミスがつづいて得点機を逃し、逆に12分永田に追加点をとられてしまった（4－0）

西車はようやく14分大崎（中京女大）が初ゴールしたものの、そのあとは東車GK坂野の堅守にあって追いこめず、前半で5点差がついた。西車もGK北岡（中京女大）がしばしばピンチを防いでいただけに攻撃陣に一工夫が欲しかった。吉開（甲子園大）－安田といったコンビネーションを要に組織的な攻撃を試みるべきで、いたずらに個人技をくり返すばかりだったのは無策にすぎた。

ここらあたりが〝オールスターゲーム〟のもつ短所なのかも知れないが、スピード豊かに多彩な攻め口を見せる東車とはあまりにも対照的な試合運びだった。

選考基準決まる 今冬の全日本選抜

日本協会は9月26日の月例常務理事会で今年の全日本選抜（12月18～20日・東京体育館）の出場について協議、その結果、男子は12女子は10チームの候補チームをあげ選考委員会によって各4チームを11月中旬までに決め発表することになった。選考委員（5～9名）は10月10日の全国理事会で決まる。候補チームは次のとおり

▽男子 第22回全日本総合上位4チーム（大崎電気、ワクナガ薬品日体大、芝工大）、第13回全日本教職員優勝（埼玉教員ク）、第10回全日本実業団準優勝（三景）、第21回全日本高校優勝（新居浜工高）、第25回国体一般男子上位2チーム、同教員優勝、同高校男子優勝第13回全日本学生1位または2位または3位。

▽女子 第22回全日本総合上位4チーム（大洋デパート、大崎電気、日本ビクター、美和ク）、第10回全日本実業団準優勝（田村紡）、第21回全日本高校優勝（水海道二高）、第25回国体一般女子上位2チーム、同高校女子優勝、第4回全日本学生優勝。

関東学生10月19日に開幕

関東学連秋季リーグ戦の男子1部（8校）2部と女子（5校）は10月19日に駒沢屋内球技場を中心にして開幕する。なお男子3・4部は10月5日から開幕する。

全日本学生選抜東西対抗 20年の記録

○……男　子……○

①昭23.12.29　西宮
東 7（3—2 / 4—2）4 西

②昭25. 1.15　西宮
西 4（3—2 / 1—1）3 東

③昭26. 1.15　駒沢
西 10（4—2 / 6—2）4 東

④昭27. 1.15　西宮
西 10（5—1 / 5—4）5 東

⑤昭28. 1.15　神宮
東 10（7—3 / 3—3）6 西

⑥昭29. 1.15　西宮
西 12（5—4 / 7—6）10 東

⑦昭30. 1.16　神宮
東 14（9—2 / 5—7）9 西

⑧昭30.12.18　西宮
東 17（7—2 / 10—5）7 西

※昭31.32.33年度は中止

⑨昭34.11.29　国立
東 18（7—9 / 11—7）16 西

⑩昭35.11.23　西宮
西 16（8—9 / 8—5）14 東

⑪昭36.12. 3　豊中服部
西 14（6—5 / 8—5）10 東

⑫昭37. 9.15　名古屋鶴舞
東 22（11—4 / 11—7）11 西

※第12回までは11人制第13回以後は7人制

⑬昭38. 9.22　名古屋中京大グランド
東 27（13—7 / 14—6）13 西

⑭昭39. 9.20　名古屋金山体育館
西 29（14—13 / 15—10）23 東

⑮昭40. 9.19　愛知県体育館
東 26（15—9 / 11—15）24 西

⑯昭41. 9.18　愛知県体育館
東 26（13—12 / 31—10）22 西

⑰昭42. 9.17　愛知県体育館
東 27（18—5 / 9—12）17 西

⑱昭43. 9.15　愛知県体育館
東 23（12—7 / 11—8）15 西

⑲昭44. 9. 7　愛知県体育館
西 17（11—5 / 6—11）16 東

⑳昭45. 9. 6　愛知県体育館
東 18（9—2 / 9—7）9 西

○……女　子……○

①昭44. 9. 7
西 9（5—4 / 4—3）7 東

②昭45. 9. 6　愛知県体育館
東 11（6—1 / 5—2）3 西

佐々木（東軍）が8得点の活躍

第2試合・男子対抗戦は午後3時40分から西軍のスロー・オフで開始

【観戦記】東軍は佐々木（中大）が当りにあたった。4分自軍ゴール前でのインターセプトから独走右から強烈なシュートを放って先制点を奪い、18分3—1のあと一人で連続3ゴールをあげて6—1と開く抜群の活躍だった。

西車はエース中井（同志社・オリンピック候補）が徹底的にマークされて動きがとれず、まったく鋭さがなかった。2分、4分の絶好機を東車GK本田（日体大・オリンピック候補）の美技に阻まれ先制できずに終ったのもひびいたようだ。

東軍 18（9—2 / 9—7）9 西車

得	【東軍】		【西軍】	得
0	本田（日体大）	GK	戸田（中京大）	0
0	亀谷（日体大）	FP	土田（桃山学院）	2
1	植田（中央）	FP	脇田（大阪経大）	0
1	串野（日体大）	FP	清水（大阪経大）	1
0	永海（日体大）	FP	中野（同志社）	4
1	花輪（中央）	FP	宮松（関西大）	2
8	佐々木（中央）	FP	中井（同志社）	0
18				9
	（1）	7MT	（1）	

審判・赤松　浅野

◇交代選手【東軍】▽GK望月（中央）得0 ▽FP田中（日体大）得1、安達（日体大）得0、新実（芝浦工大）得2、石田（仙台大）得4、大江（芝浦工大）得0 松原（日体大）得0、酒尾（金沢工大）得0【西軍】▽GK入江（関西大）得0、▽FP勝田（名城大）得0、足立（中京）得0、宮内（九州産業大）得0、都地（九州産業大）得0

○……東軍は佐々木のほか串野（日体大）、植田（中大）、大江（芝浦工大）ら定評のあるテクニシャンが要所で好技を発揮、一方的に試合を進めた。

西軍は後半の立ちあがり、中井が7MTを決めたあと中野（同志社）の好プレーで9分5—9と迫り、その後の反撃が期待されたのだが東軍は10分から2分間に3ゴールをあげて主導権を放さなかった。

西軍も14分土田（桃山学院）、16分中野がゲット、食い下ったがそのあと東軍は佐々木、新実（芝浦工大・オリンピック候補）らがたてつづけに強シュートを射ちこみ、25分18—7と開いて勝利を動かないものにした。

○……亀谷、安達、田中（いずれも日体大）の巧みな動きで相手ディフェンスをかく乱し、機を見て主力アタッカーにミドルを射たせた東軍のベンチワークも巧かった

西軍ではGK戸田（中京大）が最後まで粘りのあるプレーで健斗していたのが光っただけ、FP陣は最後まで歯ぎれのよい攻守を見せることができなかった。

ところで、男女とも現行の総花的な選手選考の方法を再検討する必要がありそうだ。

昨年の敗戦に奮起した東軍は、今年はコンビネーションを考えて主力は関東学連の1〜3位校に限定、そのためオリンピック候補の有永（立教）まではずされてしまった。賛否両論はあろうがこの思い切った策は注目してよい。20年の球史を刻んだのを機に「勝ったためのチーム」編成を心がけるべきではないか。それがレベルアップになり普及にもなるように思う。

世界学生、出場を断念

全日本学連は、来年4月プラハ（チェコ）で開かれる第5回世界学生選手権の出場を検討していたが、遠征費補助の裏づけがなく全額個人負担になるなどの理由で参加を断念した。

オリンピック候補が初合宿
みっちり基礎練習

注目のオリンピック第一次候補選手17名による最初の強化合宿が9月16日夜から20日まで東京・青少年総合センターで行われた。

若さと斗志にあふれた選手の顔、顔、顔。日本のトッププレイヤーが一堂に会したにふさわしい練習をくりひろげオリンピックへ向かっての本格的な第一歩は、まず順調にスタートしたといってよいだろう。

□……さすがに迫力がある。17名のうち12名は今春の世界選手権代表で、その時の強化合宿でも「大きいなあ」と感じたが、さらに一まわりたくましくなっている。

新鋭・花輪（中大）や期待の左腕有永（立教）、新実（芝浦工大）それにGK大村（日体大）が加って若さにもあふれている。

□……コーチ陣はオリンピック対策部の村田部長と竹野コーチ。二人のコンビも2年目を迎え、すっかり落ち着いた指導ぶりだ。

一日午前、午後、夜と計6～8時間の練習。村田部長は『今回の合宿はシュート力の養成とディフェンスの強化を目標』といっていたが、どちらも日本のナショナルチームには〃宿命的な課題〃。

世界選手権前にもかなりの練習量をつんで自信をもって臨んだがやはり宿題は宿題として残っているようである。

□……練習は徹底的に基礎のくり返し。射っては拾い、拾っては射つ。本田（日体大）、下里（大崎電気）、大村のGKトリオが堅守を見せてシュートを阻めば、FP陣はまるで試合のような斗志をムキ出しにして強シュートを放つ。

木野（ワクナガ薬品）、飯田（大崎電気）、斉藤（日体大）、中井（同志社）、平岡（東京教員）、有永、新実ら主力アタッカーのシュートはゴール後の壁をいまにも突き破りそうだし、バーに当ってはね返るボールは12M上の天井にぶつかりそうだ。

また野田、藤中（ともに大同製鋼）、東（大崎電気）、早川（ワクナガ薬品）、花輪らテクニシャンの巧妙なシュート力も目立つ。彼らは世界が賞讃と驚異の目で見つめる〃スピードでスマートな日本戦法〃の要なのだ。

□……攻撃練習を見ているとこのスピードでも本場にはほど遠いのかと思いたくなる。

村田部長は『問題はロングシュートだ』という。ゴールエリアからなら日本選手の力と技は外国選手にヒケをとらないが、今や国際試合は10m～12m附近から射ちあえるパワーが一つのポイントになっている。この地点から相手の長身ディフェンスのスキを抜き、さらにゴールを成功させるシュートとなれば、これまでとは一ケタ違うスピードが要求されるわけだろう。

□……選手たちの覇気もすさまじい。一つ一つのプレーに〃心〃を打ちこんでいるのがよく判る。チームの中も競争なのだ。

夏の大会で左脚を痛めた近藤（大崎電気）は大事をとって見学していたが、練習時間の大半、鉄アレイを振って離さなかった。

周囲の目も熱っぽい。同じ時期に技術指導の初会合が開かれたせいもあるが、連日荒川理事長をはじめ日本協会関係者がコートサイドに姿を見せ、また夜の練習にはセンターに宿泊している人たちが見学に集って来た。「オリンピック」という史上初の大目標が内にも外にも異常な高まりを誘っているといってよいだろう。このムード、大切にしなければなるまい。

なお、第二次合宿は12月21日からの25日まで東京で行われる予定

12月に第2次候補発表か

日本協会ではオリンピック第二次候補選手の発表時期について検討していたが、国体（10月）、全日本学生（11月）、全日本選抜（12月）の三大会終了を待って行うこととし、全日本選抜最終日（12月20日）に発表できるよう準備をすすめる。

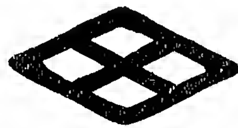
新たにGK大村（日体大）を追加

日本協会では、このほどミュンヘン・オリンピック第一次候補選手としてGK大村久選手（22才・日体大4年、塩山商出）を追加すると発表した。

夏の各全日本選手権終了後、候補選手の追加が予定されていたものでFPも二～三名がリストアップされたが見送られた。

なお、近藤克彦選手（大崎電気）が渡独＝本誌前号既報＝して候補を辞退したのにつづき、江名英彦選手（三景）の辞意も固く日本協会も了承、10月1日現在の第一次候補選手はGK3、FP14の計17名。

合織糸・合織混紡糸



田村紡績株式会社

社長　田　村　正　衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 四日市 6—2156（代表）
郵便番号　512

新居浜工高 訪韓リポート

日韓親善交歓試合に参加して

監督　千葉秀雄



第三回日韓親善交歓試合に参加しての感想をのべてみたいと思います。

先ず全日程を無事に親善の目的を果すことが出来る様に御指導御配慮下さった日本体協、役員の各位に対して心よりの御礼を申し上げます。

又韓国の関係役員諸氏の御厚情御協力に紙上ではありますが心よりの敬意を表したいと思います。

八月十八日吾々選手団は異国の風景を機中から眺めながら金浦空港に到着しました。空港での盛大な歓迎を受け泰陵の選手村に入村致しました。ソウルの気候は日中は日本と変らない温度であるが湿度が低いため爽やかで夜は九月中旬頃を思わす位の涼しさであった食事の内容は充実しておったが選手は多少困っていたのではないかと思われた。

出発前に耳にしていたのですが韓国の現状から生れる若人のエネルギーを充分見せられた感が大であった。選手は勿論のことであるが応援の生徒の一糸乱れぬ統制のとれた行動は吾々も見習うべき事ではないかと考えさせられました実にみごとであった。

試合及び交歓会における若人同志のスポーツを通じての友情を深められたことは何にもかえることの出来ない収穫でありました。

韓国選手をみて感じたことは下半身のねばり強さ弾力性の豊かさはうらやましい限りであった。ダウンボールの処理等における機敏さとねばり強さについては吾々も研究し身につけるべく指導する必要があると思います。

試合をみて難点をあげればコートがせまく速攻が出せない。ボールが国際公認球でなく仕上げがまづくよく滑ったこと、スカイプレーがサイド三米内でのパスをした者のとび込みがラインクロスになること、この点については日本ではやっているが韓国では実施していないとのことで話し合いをもったが郷に入っては何とかで彼等の意見を入れた。判定に対しては解釈の異いが随所に見受けられた。このことに関しては両国のブレーンでもって協議して純心な選手が納得して競技ができる笛を吹いてもらいたいと思いました。

日程の最後の市内観光ショッピング等短い時間ではあったが選手達は夫々楽しく異国の空気を充分に呼吸したと信じます。又親善の役割を果した満足感をもってソウルを後に致しました。今回の体験を通してより良く充実させるべく全員が一致して努力を重ねてゆく気持でおります。来年以降も代表となれることを目標にして精進致しております。駄文ではありますが感想と致します。

韓国高校チームの印象

コーチ　高橋清和



第三回日韓高校スポーツ交歓競技会ハンドボール競技は八月十九・二十日ソウル市奨忠体育館で東亜、麻浦両代表校と二試合行った

両チームと対戦し感じたことは先ず体格は立派で巾のある、がっちりとした身体と随所に見られる足腰の強さルーズボールに対する瞬発力は我々を驚ろかせた。

攻撃面に於いて特に目立った点は45度からサイドへのバックパスとスカイシュートのコンビネーションが非常に良く我々の防禦の悪さも手伝ってかなり効果を出していた。速攻を第一の武器としている様であるがGKのボール出しが悪いため点に結びつかず遅攻に切りかえる場合が多く、個人技、チームプレーに秀れたと云うより体力を生かし中央からの強引な攻撃ボールに対する執念、シュートしようとする気力は大いに学ぶべきであろう。防禦は6・0システムを用い、ボールと自分のマークすべき相手を良くみている為、ボールに対する出足が早く、カットされ得点に結びつけていたが、その反面、前の相手に注意している為ポストプレーに弱い様であった。攻撃、防禦共に体力を生かしているが荒い面が多かった様である。

現在韓国は軍事態勢にあり国家意識が非常に強い様に思われた。それと国際試合と云う対抗意識、日本に追いつけ追い越せの勝負根性は大変なものであった。

選手リポート

GK・3年　蝶野秋夫

日韓高校スポーツ交歓会が八月十九日から二十一日までソウル奨忠体育館で開催された。第一試合は、東亜チームと対戦した。東亜は一線防御のディフェンスを敷きシューターへの詰めが早く、我チームの武器であるロングシュートが大部分ブロックされ、ポストサイドの攻めも相手チームのディフェンスに押えられ余り成功しなかった。東亜チームは、強引さがあり、ノーステップ、タイミングシュートなどで得点し、我々は、コートも狭く速攻の得点もできず16―4で完敗した。第二試合麻浦チームは、よく動き、バックパス





前列右から、蝶野、曽我部、喜井、吉本、杉山、二列目右から、神野、塩田、土井、城賀本、大谷、加藤の各選手、最後列右端は学校長、左から、千葉監督、一人おいて高橋コーチ、上の写真は矢野選手

をまじえたポストプレー、サイド攻撃などを巧みに使い、我チームは、二段速攻、ポストプレーで応戦し、ディフェンスもガッチリ固め得点されるとすぐ取り返えし、最後三分が勝負という試合であったが、七メートルスローが続出しGKの好守もあったが16―14で惜敗した。この経験を今後の為に行かしたい。

FP・2年　城賀本　巧

韓国での第一戦の対戦相手は東亜高校だったが、われわれは旅のつかれの残ったまま第一戦をむかえた。東亜高校は新工より身長もあり体も大きかった。東亜は一線防御でピストン式につめてくるのに対し新工はつかれのせいか動きも鈍く東亜のディフェンスを破れなかったのが16対4と完敗した原因だろうと思う。

第二戦は麻浦高校と対戦したが第一戦の東亜とは対照的で小柄なチームだった。新工は体調も良くなりよく動いたが凡ミスが多く麻浦高校はそれに乗じてよく動いたしかし、麻浦はシュート力におとるためバックパスを通しポストでせめてきた。結局16対14という少差で新工はおしくも敗れた。

試合場になった奨忠体育館はコートもせまく、またボールは日本のより大きく重く使いなれしていなかったのも敗戦の大きな原因の一つだろう。

FP・2年　神野　公明

韓国第一戦目の相手は、東亜高校だった。東亜チームは、新工に比べて身長、体格もだんぜんまさっていた。新工は第一戦とあってかみんなあがっていたのか、動きも悪く、シュートもおさえがなく浮いてしまって最低のできだった東亜は特にディフェンスが強く新工のシュートをキーパまでとどかさないでブロックして得点をふせいでいた。新工の悪条件というのはコートがせまくて速攻にでられなかったことで、これが敗北の一つの原因ともいえよう。前から先生が言われていたように、ディフェンスのいいチームは必ず強いというのがよくわかった。東亜は強かった。

第二戦は麻浦高校だった。東亜に比べると背も低く、体格も新工と同じようなチームだったが、動きは速かった。第二戦はみんなやるき十分で試合に臨んだが前半ポストプレーを多くやられ、8―4とリードされた。しかし、後半にはいって新工も動きがよくなりロングシュートやポストプレーもよくきまり一点差まで追い詰めたが、最後7mスローをとられ結局16―14で敗れた。

FP・3年　吉本　文年

日韓高校スポーツ交歓競技会がソウルで8月19日から21日まで開かれた。ぼくたち新工ハンドボール部は、19日、東亜高校と対戦した。会場は、奨忠体育館で、バスケットコートよりすこし広い、長さ約30mほどのせまい場所だった1試合目、相手のディフェンスがうまいせいか、全然点を入れることができなくて、完敗した。だから2試合目は、どうしても名誉ばん回しなくはいけないと反省した21日、第一位の麻浦高校と対戦した。あまり背が高くないので、ロングシュートがきまり、ロングシュートとポストプレーで、点を重ねたが、7Mスローを多くとられ16―14でおしくも敗れた。この試合は、審判員が正式にとってくれたら、勝てていたかもしれないと思った。だが、そのことはどうあれこの試合にぼくたちは、全力でプレーし、相手プレーヤー達とも親しく交歓できたので後に、悔はなかった。

FP・3年　曽我部和夫

8月19日韓国東亜高等学校と対戦。

長身で、守備力のある東亜チームは、セットプレーで攻撃をしてきた。

我々は、守備力のある東亜チームに対し、速攻をかけなければならなかった。しかし30Mコートにはもはや無用であった。外国初の

国際試合であるため固さが後半になってもとけず、九千人余りの大観衆に我々の力が、飲み込まれてしまっていたようだ。

第二回戦は、麻浦高等学校と対戦。

麻浦チームは、我々とよく似たチームだった彼らは、ポストを中心としたブロックプレー、スカイプレーを多く使っていた。

我々は、前半固さがあったが、後半残り五分頃再度にわたり一点差まで追い込んだが、7Mスローを、立て続けた三本取られ、敗れた。

韓国両チーム共バックスが強かった。

FP・3年　杉山日出夫

8月19日の対東亜戦では、かなりの身長差があり、喜井のロングシュートが大部分バックにブロックされ得点出来なかった。ロングが決まらないので速攻に勝負をかけたがコートが30Mなのでなかなか速攻が出ず得点のチャンスがなかった。このチームはディフェンス力は強く特にロングシューターに対してのつめがうまかった。しかし攻撃力は余りなく特に脚力は僕達の方が上であったと思うろコートが正式ならもっと得点出来たろう。

二試合目は麻浦高校このチームは僕達とよく似た速攻を主とした小柄なチームだった。両チーム共コートが狭いので速攻が出ずセットプレーで試合が展開され、後半やや押しぎみで再度一点差に持ち込んだが、終了五分前頃から立て続けに7Mスローを三本取られた前後半通じて五本の7Mスローが敗因となった。韓国のディフェンスは45度のピストンで非常に強かった。

FP・3年 喜井　美雄

18日昼ごろソウルの金浦空港に着いた。ソウルは30度前後はあるが、空気が乾燥していたのであまり暑い感じはなく、夜は寒いぐらいであった。食べものには何にでもニンニクが入っていたので初めは食べにくかった。19日朝、奨忠体育館で開会式があり、午後から第一試合があった。相手は韓国二位の東亜高校であったが。とにかく体格の良いのには驚いた。攻撃ではサイドからの空間プレーは、よくジャンプしコントロールもよかった。この試合は完敗であったが。

次の日は夕方、親善の夕べがあり韓国選手と食事をしたり、ゲームをしたりして楽しく過した。21日は一位の麻浦と戦ったが、体格は私達と同じぐらいであるが動きが速く特にポストプレーがうまくパスをするとき全部バックパスを使っていた。この試合は惜敗した。韓国は異なり言葉も通じないがスポーツマンとして互に交歓し、よく理解することができた。（主将）

FP・2年　矢野　充彦

18日の朝、9時ごろ羽田空港を出発して昼ごろ韓国の金浦空港に着いた。その日は、少し練習してそのあとブラブラとしていた。

次の日ソウルの体育館で開会式を、やって、試合が始まった。ぼくらの試合は、卓球のあとであった。競技場に入場すると、円形の競技場のまわりには、ぎっしりと人が入っていた。やがて、ペナントを交換して試合がはじまった。すると、韓国が得点するとものすごい拍手の雨が降った。そのためか、ぼくらは、あまり動きが良くなくて、コートも短いせいもあったので、第1試合は完敗した。次の試合は、21日の夕方行なったがおしくも負けた。2試合目は、もうすこしで勝てたのだが、やはり地元の利で、まけた。

第1試合は、あまりくやしくなかったが、第2試合は、とても、くやしかった。こんな大観衆の中での試合は初めてだが、これを生かして、これからもがんばっていきたいと思った。

FP・2年　加藤　和彦

韓国での第一戦は、韓国に着いた次の日で、疲れも残っていたしハンドボールコートも10メートル余り足らず、ボールも比較的重かったので、試合内容はあまり良くなかった。第一戦の対戦校は、東亜高で、背も一まわりぐらい我々より大きかった。東亜高は、一線防御で、ピストンのようなつめ方をしてきた。そのつめが早く、しかも、新工は疲れが残っていたため、動きが鈍くて、バックが弱くなっていた。こうしたことが、大差で敗れた原因だと思う。

第二戦は、背も低く、シュート力もあまりない麻浦ではあったがバックパスを通され、ミスしたボールを速攻で決められたし、新工得意の速攻が、コートが狭いため決まらなかった。しかし、味方のロングシュートが、決まり、面白い試合運びとなったが、最後の7Mスローで、敗戦試合となった。

FP・2年　大谷　公重

全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技で優勝して、韓国に行くことになった。そして、8月18日に羽田空港を出発して、その日、金浦空港についた。そしてすぐ韓国の代表の人達のお話を聞いて、ぼく達が、5日間宿泊することになっている選手村に行った。韓国では、19日、21日と試合をして、21日にパーティをした。パーティは、韓国の選手達と歌ったりして楽しかった。21日と23日は、ショッピングや観光をした。韓国では日本語を知っている人が多かったので、ショピングも日本でするようにできた。観光は、ソウル市内にある昔政治をしていた所を見学した。また、韓国にきて、日本の他のチームの人達はもちろん

日韓高校の成績

▼第1回（昭37.8　全日本高校訪韓）
- ○22—9　東星
- ○17—8　麻浦
- ○16—6　養成（11人制）
- ○18—8　大倫（11人制）
- ○14—7　成（11人制）
- ▽7—7　五山（11人制）

▼第2回（昭38.11　韓国高校選抜来日）
- 明星（東京）　○19—11
- 茨城選抜　●18—38
- 名古屋選抜　●19—24
- 兵庫選抜　●19—22
- 大阪選抜　●17—23
- 福岡選抜　●20—37

▼第3回（昭43.8　下関中央工訪韓）
- ○18—16　朝鮮大附属
- ●12—16　大倫

▼第4回（昭44.8　朝鮮大附属来日）
- 中大附（東京）●7—11
- 下関中央工（山口）△8—8

▼第5回（昭45.8　新居浜工訪韓）
- ●4—16　東亜
- ●14—16　麻浦

韓国のチームの人達とも、親しくなって楽しかった。この韓国遠征は、ぼくにとって、一生の思い出になることだろう。

FP・1年　土井　利彦

8月18日、不安と喜びを胸に日本を後にした。それから四日間、韓国にいたわけです。

翌日、盛大な開会式が行なわれた。後、韓国での一戦が行なわれた。しかしその結果むなしくも敗れた。がその試合にいかりを感じた。それは審判に対してのいかりでした。「日韓親全のための試合でもそれは形だけのものなのか」と思いました。

一日がすぎいよいよ第二戦目がやってきました。しかしこの試合も敗れてしまいました。

閉会式の数時間前、第一戦目のチームと公園で仲よく話したりしました。試合の時すごくにくく思いましたが、いっしょにいるとそんな思いが消え去っていきましたバスケットボール女子の試合を最後に日韓親善試合の終わりをつげたのでした。

翌日、韓国最後の一日を観光と買い物ですごしました。買い物をしていて、店のおばさんがいらっしゃいませといった時びっくりしました。日本語をじょうずに使うからでした。

最後にいちばん苦しめられたのは食事でした。ニンニク、とうがらしがプンプンにおったからです。それとバスで町を見ているとニンニクのにおいがくさかったことでした。特に感じたことだけれども、道路や車はよくなりましたが人間じたいがあわれに思われました。

その夜韓国を後にしました。

GK・2年　塩田　正信

韓国という所は、どんな所だろうか、そんな疑問をいだいて行った。始めは、日本とたいして変らないように思ったが、その考えは甘かった。少し郊外へ出ると、もう後進国という感じがした。それに特有の、にんにくのにおいで、それ四日間、苦しんだ。早く日本へ帰りたいと着いた日から思っていた。

試合は、相手はやはり国のためにやるんだという気迫が感じられた。しかし、コートの長さや、審判の判定に疑問な点が多かった。二試合ともに敗れたが、精一ぱいやったので悔いはなかった。後で相手チームと、ボールの交換をしたり、話をしたりした。話といっても、かんたんな英語や、手まねだけだ。もっと韓国の言葉を、勉強していたらよかったのにと、つくづく感じた。

第五回女子世界選手権はオランダで　71年12月

9月18・19の両日、スペイン・マドリッドで開かれた国際ハンドボール連盟（IHF）の総会に出席し、9月28日に帰国した渡辺和美副会長は第五回女子7人制ハンドボール世界選手権大会は、1971年12月10日から20日にかけてオランダで開催されることにIHF総会で決定したと語った。

詳細な日時、どのような形で大会が開催されるかは未定だが、会場探しが難行したこの大会もこれで開催が正式決定した。

住友化学菊本、韓国へ　実連が初の交流

全日本実連は今秋11月に住友化学菊本（愛媛）を韓国へ派遣、実業団（社会人）による初の日韓交流を行うことになったと発表した。

試合数、対戦相手、遠征メンバーなどは10月中旬に決まる。

×

日韓交流はこれまで大学、高校（いずれも男子）が毎年〝定期戦〟的に行っているが、実業団（社会人）については、学生が中心・主力の韓国球界の現状からみてあと二〜三年は難しいといわれていたものである。それがこうも早く実現したのは、韓国協会のあらゆる分野で両国ハンドボール界が手を結びあいたいという熱心な態度と、全日本実連・田中理事長の進取的な姿勢が合致したからだろう。

韓国協会は、単独チームの来征を希望しているため、全日本実連は、代表候補として今春2月の第10回全日本実業団選手権上位6チーム（大崎電気、三景、常盤工業、住友化学菊本、日進商会、新日本製鉄名古屋）と今シーズン国内最上位の陣容を布いているワクナガ薬品と大同製鋼の合わせて8チームに遠征の意向を打診、その結果3チームが訪韓の意思を示した。

全日本実連ではその中から住友化学菊本を推せんすることに決めたもの。

全日本教職員選手権を見て

由利　弘

田村会長の地元である四日市で開催される本大会には中学指導者講習会や中華民国の来日などがあったが、何よりも全国から集る顔なじみの選手のプレーに接することの出来るのを楽しみに出掛けたら笛を吹くことになった。私の興味は技術的な面でなくこの大会の雰囲気である。先生方が良くゲームを楽しんでいたことが嬉しかった選手中の最年長である滋賀の寺村選手は数日前のインターハイ開催の疲れも見せず若々しいプレーをしていたし、往年の名選手が新卒の若い先生と一緒になり日頃指導者として精進しているせいかダブルヘッダーにもめげずプレーに打込んでいたのはさすがであった予選なしの全国大会なので大差の出るゲームもあったが、年一回出て来て努力する先生方のこの大会は日本ハンドボール界にとっては低辺の拡大、指導者養成、実戦を通じての技術確得と日本ハンドボール界をささえる基盤になっているのでぜひ日本協会でも縄張り的な考え方をせず大切に育成してやって欲しいものである。又大会も13回になったが毎年出て来る顔なじみの選手が新卒の先生と一生懸命プレーをしているのを観るとその努力に対して頭の下る思いをするのは私だけでないと思うが連盟も何んとか方法を講じて表彰したら良いと思うが……。

最後に指導者の全日本大会なのに14名のメンバーを提出したり、ユニホームが不整いであったり、出場申込をしながら棄権チームがあったのを残念に思った。（全日本教職員連盟常任理事、大会審判員）

世界女子代表、年内に発表か
技術指導部で決定

技術指導部は9月17、18日の両日東京で初の総会を開き、今後の活動方針などについて協議した。

沖縄協会から初の本部委員となった大城光隆氏をはじめ本部、各ブロック、各加盟団体から推せんされた25委員のうち17委員が出席熱心な討論が行われた。

その結果、来年12月オランダで予定される第5回世界女子7人制選手権の全日本代表については、単独チーム中心の編成をやめ、男子同ようナショナルチームをつくり出場することとし、その選手選こうを年内に行うという注目すべき決定をみた。

女子の世界選手権は前回（昭43）が欧州の政治情勢が理由で流会となり、来年6年ぶりに開催されるが、すでに日本協会では5月の月例常務理事会で同大会への参加を申し合わせ、代表選手の選考などについて技術指導部の担当とし同部の意向に注目が集っていたものである。

9月26日の月例常務理事会における勝技術指導部長の説明では「5～9名の選考委員によって12月20日の第17回全日本選抜終了後、監督、コーチ各1名と選手15名を発表、すぐに強化に着手する」ということで、本大会出発までに3～4回の強化合宿が行われよう。

選考委員は10月10日の全国理事会で発表されるが、すでに勝部長ら本部推せん技術指導部員は夏の全日本総合選手権を選考の一対象として〝視察〟しており、選考委員会へ資料を提出にする予定。このほか岩手国体（10月）、全日本学生（11月）、全日本選抜（12月）の3大会が選考対象となる。

男子の世界選手権代表決定までには第一次48、第二次17名（44年6月・欧州遠征）、第三次14名（世界選手権代表）としぼっていったが、今回は大会が間近かに迫っていることや、選にもれた選手の取り扱いが女子の場合難しい問題を生むなどあって、いきなり晴れの代表を選こうし発表しようというもので、10月10日の全国理事会で最終的な協議が行われる。

技術指導委員ほぼ揃う

技術指導部は今後の活動をより広く深いものにするため本部選出委員のほか専門委員の推せんを各ブロック、各加盟団体に依頼していたが、このほど2名を残してメンバーが出揃ったため、その名薄を発表、前掲のように東京で初の総会（＝詳報次号）を開いた。

【ブロック推せん委員】吉沢正登（北海道）、佐野和夫（関東）、片瀬喜代次（東海）、徳前啓人（北信越）、小西博喜（近畿）、柳井文治（中国）、石原達夫（四国）、岡井幸由（九州）、大城光隆（沖縄）※東北は未定

【加盟団体推せん委員】宇津野年一（全日本実連）、望月伸三郎（全国高体連）※全日本教職連は未定

（注）本部推せん委員13名は本誌第77号参照

ソビエト女子の来日不可能
来年の交流を断念

日本協会は来年に予定したソビエト女子ナショナルチームとの国際試合を断念することになった。

9月18日に受けたソビエト協会からの連絡によると、すでに同チームは来年度のほとんどの日程を決めており、日本の招待に応じられないという。日本協会は9月26日の月例常務理事会でこの企画を白紙にもどし他日を期すことにした。

ソビエト女子の招待は、男子に代えてかねてから日本協会がソビエト協会へ打診していたもの。

大同製鋼、名城大が沖縄に遠征

大同製鋼（愛知）チーム一行13人は9月7日から13日までの一週間初の沖縄遠征を行い、強化合宿のかたわら地元チームと親善試合を交えた。また地元の要望で野田藤中両オリンピック候補選手などによる技術指導会も開いた。

東海学生の優勝校・名城大チーム（愛知）は、同大学沖縄支部結成10周年を記念して7月22日から27日まで那覇市に遠征、地元チームと3試合を行った。名城大29－11沖縄教員選抜、名城大27－13琉球大、名城大29－14琉球大

酒井賢治氏

（元全日本学連・関東学連理事、早大部長）8月30日午後4時脳出血のため亡くなられた70才。告別式は9月2日東京でしめやかに行われ、日本協会、学連、早大関係者らが多数参列した。

酒井氏は昭和13年早大ハンドボール部が発足すると同時に部長に就任、今春早大を退官されるまで実に32年間にわたってつとめられた。伝統を誇る学生界にあってもまったくまれなことで早大OBはもとより関東学生界各校も酒井氏の情熱に深い感銘を覚えていた。

この間全日本学連、関東学生理事にいくたびも推され、学生ハンドボール界の発展に多大な功績を残されている。

クラブ・中学生対策を探る……

クラブ（一般）と中学生対策は斯界のかかえる大課題だ。
日本協会でも5年来の懸案で10月の全国評議員会や理事会でも当然議題となろうが早急に解決は難しいという。
今夏、東海で初の両ブロック大会が行われるなど前途はわずかに開かれつつあるが、その問題点を改めて探ってみた。（編集部）

一般クラブ対策

いわゆる社会人によるクラブは斯界の底辺の一角を支えるものとして大きな存在である。

にもかかわらず、クラブは年々後退、減少の一途をたどっている

理由はいくつかある――実業団球界の拡充で企業体チームと差が開く一方なこと、レジャーブームさらには人口の都市集中化もその一因として考えられぬことはない

日本協会にとってもクラブの数が減ることは財政面にも影響を及ぼし深刻な問題だ。しかし、学生、教職員あるいは実業団のように全国的なタテの組織をつくることはなかなか難しく、勝負を競うより競技を楽しむ境地のチームが多いだけに全国大会を開けば難問が解決するというものでもない。結局は、「底辺問題は底辺で…」と各都道府県協会に一任したまま時日を経過して来た。

各都道府県協会も問題の大きさを充分に承知しており、クラブリーグや、一般大会のなかでクラブ部門を独立させるなど苦心を払い愛知協会のように県内2地区に別々のクラブリーグが発足したようなところもある。

問題はこのあとである。県単位の大会を土台にしてブロック、全国大会へ伸展させるかどうか。

こうした折、東海協会が8月23日、初のブロック・クラブ選手権を開いたのは大いに注目される。もちろん全国でも初の試みで東海4県から男子16、女子6（棄権1）が名古屋の愛知県体育館に集った。

愛知は前記の県内クラブリーグから代表が選出され、岐阜も同じケース。静岡は予選大会を行い、三重は推せんによってそれぞれ出場資格を決めたようだが〝ハンドボール王国〟を自他ともに許す東海協会にして初めて出来た大会というのが、もっぱらの評判である

選手の参加資格は、大学生（除く大学院）高校生は一切認めず、実業団連盟登録選手は暫定的に一クラブ2名に限り許可された。男子はほとんどのクラブが15名をフルエントリーしている。

男子は4チームづつ4組に分かれて予選ラウンドを行い第3回世界選手権代表の金田のほか奥本、和保、松浦、林、吉田、杉本ら関西、東海学生界で活躍したOBによる鯱ク（愛知）新、山田、吉金と元世界選手権代表3人を擁すファンシー（岐阜）名城大OB主力の名城ク（愛知）ベテラン揃いの清見潟ク（静岡）の4チームが11月1日名古屋市体育館で行われる決勝トーナメントに勝ち残り、女子では名門・静岡城北クと田村紡OGのなつかしい顔が並んだ四日市ク（三重）が決勝へ勝ち進んでいる。

選手たちのクラブ大会に期待する声は想像以上に大きく、今後に楽しみを残しているが、全国大会については同大会を切りまわした太田耕治競技委員長（名大OB）も『底辺がしっかりした段階で開くべきだろう。下部からの盛りあがりがなければ全国大会は無意味だ』と慎重である。

やはり、ブロック大会が根を下ろさねば全国大会は難しいということなのだろうか。

今のところ東海につづくのは来年8月に第1回を予定する関東だけのようで、全ブロックが出揃うのは早くても昭和48年度になるのではないか。

クラブチームの中には『国体をクラブのために解放すべきだ』という意見がある。

クラブのおかれている条件からすれば、県から遠征補助金の出る国体はありがたい。実業団をしめ出せば国体がクラブの全国大会の代行にもなる、というのだ。

クラブにとって国体はたしかに唯一の活きる道かも知れない。

北陸の名門・氷見ク（富山）は今年から全日本総合出場よりも国体を目標に切りかえそれを果した

三菱鉛筆が解消した神奈川の一般女子界は二つのOGクラブが復活したという。

だが、日本協会のある理事は『国体をクラブのものとするのは理想だ。しかし各都道府県が得点を

争っている現行のシステムでは、強いチームの輩出によって、その県におけるその競技の普及度、認識度が高まることになる。上昇途上のハンドボール界では、〝理想〟だからといってすぐには踏み切れない』と苦しい立場を説明している。

結論を導き出せぬままのところへ、今春4月の全国評議員・理事合同会議で来年度から全日本総合選手権の出場チームを男女ともすべて日本協会推せんとし、いわゆるクラブ（社会人）部門から男子2、女子1を推すことが決まった

この決定でにわかに、クラブの全国大会開催機運が高まるとみて日本協会でもその具体策を検討。9月には総務企画部が「全国クラブ大会案」を、普及部が「全国選抜クラブ大会案」をまとめるまでにこぎつけたのだが、両案ともに常務理事会以前の段階で早くも暗礁にのりあげてしまった。

というのも強力実業団を持たずその影響を受けていない地域の関心がうすいことや、「全国大会まで開く必要はあるまい」といった考えが意外に根強いからだ。

このため、来年度の全日本総合へのクラブ部門の推せんは、第26回国体（46年10月・和歌山県打田町）に出場したクラブチームのなかから選び出すことに落ち着きそうで、47年度以降については改めて検討しなおされるだろう。

クラブの減退で財源をおびやかされながらも、特効薬を早急に見つけ出すことは難しそうだ。

一部に、全日本実業団連盟を発展的に解消、新たに全日本社会人連盟（仮称）を組織して同連盟内に実業団部門とクラブ部門を設けたらといった意見もある。

日本協会ではとりあえずクラブのブロック大会には「日本協会杯」（持ち廻り）を贈り、クラブ――日本協会のつながりを保とうとしているが、よい反響のあることが期待される。

中学生対策

中学生（校）をふくめた年少者対策については、全国からの資料をもとに本誌第72号にかなり詳しく特集された。

文部次官通達の緩和によって今夏、サッカー、バレーボール、軟式テニス、体操などが少年少女あるいは中学生の全国大会を実施、各競技ともそれなりの成果をあげたようだ。

ハンドボール界はこれらの成功を横目で見ていたわけだが、卒直にいって中学校ハンドボールにしても、ハンドボール少年団にしても斯界はまだまだ全国大会を開ける下地が整えられていない。

全国大会を開けば、それに刺激されて底辺が築かれるだろうという積極論もあるが、現状を知ればかなりの強硬意見でしかない。

例えば、全日本高校選手権をはじめた昭和25年度に高校ハンドボールは、38都道府県で実施されていた。現在、中学校ハンドボールが行われているのは28都道府県にしかすぎぬ（本誌調べ）

しかも社会条件がよくなったとはいうものの高校に比べ中学生の全国大会開催には多くの課題がある。

すでに20年近い中学球界の実績をつみ、年少者対策について献身的な努力をされている愛知協会の西川勤也常任理事は、今夏宿願の東海中学大会を開いたが『全国大会を開くとなれば最大の課題は交通費、宿泊費それに傷害問題だ』といっている。

東海大会（8月24日・名古屋）は一日だけの日程で宿泊費はかからなかったが、交通費は各県とも一部を協会が負担、そのほか各県協会が二千円づつを出しあって一人十万円の傷害保険金のカケ金をこしらえた。

これが全国大会ともなれば、一部負担といっても二～三百万円の予算は必要（日本協会総務企画部の話）であり、頂点強化に重点をおく斯界としては、その工面が難しそうだ。

中学生のブロック大会は、近畿がその総合体育大会の一種目として19年前から実施しているだけ、今年になって東海、北陸三県（福井富山、石川＝8月17日・金沢）が初めて手をつけたものである。

その他の地域は「構想はあるがまず各県に一校でも多く実施してもらうことが先決」だとしており全国大会は先の話といったムードが濃い。

東海、近畿にしてもこの問題について正式な話合いを行ったことはないようで、西川氏も『開催地が東京か大阪ならば出やすいのではないか――』という程度。北陸3県でも「全国大会の開催に反対はしないが、まずブロック大会を地固めさせたい。今年の経験から希望は大いにもてる」と今すぐ全国大会を、の声はない。

日本協会ではクラブ問題同よう来年度はまずブロック大会を促進させるように近く関係者に働きかけることにしているが、47年度からの「中学校指導要領」への復活がどう作用するか。また、小学校への普及も一つのカギであろう。

中学球界の確立は、指導者の養成が不可欠の条件であることも忘れてはなるまい。

大会成績

▼第1回東海地区中学大会（8月24日・名古屋）

▽男子1回戦（2試合）

加納（岐阜・岐阜市）14（5―6　7―6　1―0　1―0）12　前津（愛知・名古屋市）

三谷（愛知・蒲郡）19（12―4　7―2）6　吉原三（静岡・富士市）

▽同決勝

加納 22（8―6　10―12　1―1　0―0　1―1　2―1）21 三谷

▽女子1回戦（2試合）

加納（岐阜・岐阜市）6（2―3　4―2）5　南部（愛知・一宮市）

中部（三重・四日市）14（8―0　6―1）1　清水女（静岡・清水市）

▽同3位決定戦

南部 26（13―4　13―1）5 清水女

▽決勝

加納 8（3―3　5―3）6 中部

▼第1回北陸三県中学校選手権（8月17日・金沢）＝男子のみ

▽リーグ戦

紫錦台（石川）8（5―2　3―5）7　氷見南部（富山）

甲陽（福井）18（9―7　9―6）13　氷見南部

甲陽 10（7―4　3―6）10 紫錦台

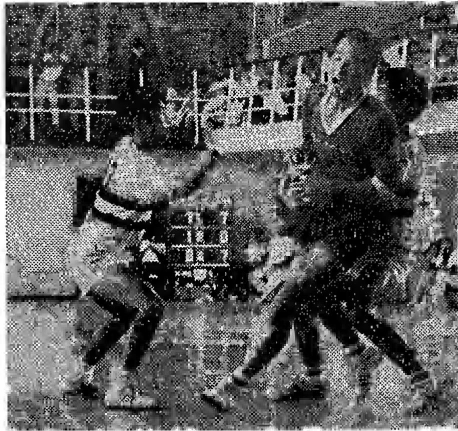
【順位】①甲陽②紫錦台③氷見南部

―痛感すること―

光島磯雄

ハンドボールの競技技術は再三の海外遠征、或いは国際交流により毎年著るしい進歩をとげつつあることは誰もが認めるとおりであるが、これにくらべてゲームの管理者であり進行係である審判員の技術は未だに数歩をへだてているの感を持つのは私だけではあるまい。この点について思うところを記してみたい。

確かに日本のハンドボール技術は日進月歩の発達を示しつつあるが、その内容を考えるとき、明らかにそれは攻撃術の面に偏った傾向がある。日本人の持つ民族的特性として「粘り強さの不足」は防禦観念の不徹底という点で今まで度々指摘されて来た。これは中学高校以来の練習形態、特に導入の時期において常に「キャッチボール」と「シュート技術」によってはじめられるのが普通の過程であり、かつまた短時間短時日に多くのことを習得するためにはやむをえず総花主義的な内容に陥らざるをえぬこととなり、卑近な例をあげれば、全国高校大会一位が韓国の高校に勝てないという現実となって答がはねかえってくることを毎年のように思い知らされるのである。もちろん韓国の強さの原因は他にもいろいろあげられるがここではそれにふれない。ただ防禦を第二義的に位置させるような方向に進んでいるのが現在の一般的練習内容であることが実際の試合において他の原因ともかさなり大きなブレーキとなっているといえる。



ハンドボール理念に反するプレーが最近は多すぎる…

昨今の大会での各チームのゲーム態度をみると多分にハードゲームとラフゲームの混同がいたるところにみられるのは真に残念なことである。

ここで審判員の役割がいよいよ重大となるわけであるが現在のブロック推せんの人達で全国的大会を運営するという行き方では明らかに、高校大会、教職員大会、全日総合、国体と続く各種の大会がそれぞれ稽古台（トレーニング場！）的な役割しか果しておらぬと思われてならないのである。なるほど東京での中央研修や各ブロックでの伝達講習といった具合に審判員の態度技術の統一向上については種々策を講じられて居ることは事実であるが、現今の選手諸氏のプレーへの努力にくらべ審判員諸氏の努力はそれに恥じぬものがあるかどうか。連日炎暑烈風に耐え身心共に大きな犠牲をはらい大会に出場し一点一秒を争う白熱ゲームのさなかにおける審判員のミスがどれほど選手にショックをあたえるか考えたことがあるであろうか。避けられるミスとそうでないミスについての区別などは選手の方が良く知っているのである。この避けられるミスをおかす審判員の「全国的大会における審判経験取得」のためにタタキ台にされることこそ悲哀でなくて何であろう。先日の和歌山でのゲームにおいてもユニフォームを胸からむざんに破られたり首筋や肌にミミズバレをいくつもつけられた選手をみたがここにも現在の審判術の未熟さがうかがわれる。

現行のルールでは「警告」は個人に対して段階系列に従って適用され退場処分に及ぶが、これをさえも生きるためにはすなわち勝つためには悪用するチームも出て来ようというもの。この段階系列に従ってという語句がくせものでこれにとらわれるために選手もこれに対応したプレーを考案せざるをえぬという破目にたちいたる。審判員はすべからくハンドボールの理念に反する言動に対しては断乎としてためらうことなく処置をとってもらいたいのである。両腕で羽がいじめにして阻止する行為のいかに多いことか、又進行する相手に対して足を出すなど。直言すれば無警告で退場にすることが一番の早道なのである。「蛮勇的レフリー」の皆無なのがなげかわしい。ルールブックを形骸化しているのは誰か。

審判改善のための今後の課題として要望したいことは、全国的大会の審判員は協会の責任で実力第一に選出委嘱してその年度における分担を明らかにし、最高のコンディションを保持して任にあたることの出来るような配慮をのぞみたい。今のやり方では単に経験取得を通じて上級昇格の材料となるのみで、玉はみがかずとも光輝を発するに反し、砂利石はいつまでもそれ以上のものではありえない現状を続けることは確実である。特に地方では全く笛を吹かぬ人が大会でその任にあたるという事実があるとすれば選手に対してこれ以上の非礼はありえず、到底納得出来ることではないのである。

審判員の資質向上にしても種々考えられて居るが新たに考課表のようなものを制定して責任ある評定を下せる機構を強化すべきであろう。又、短距離走、敏捷性、視力、ハンドボール技能、レポート個人研究等も有効な方法である。年功序列などは問題外とすべきである。

普及度が高まれば高まるほど一般の人々もルールに通暁するのが当然である。日本人の性格としては不祥事のおこることはありえないとは信じて居るがすでに野球においては茶飯事となりまた一部の競技種目においても観覧席からモノがとぶ事態となりつつあることは知る人ぞ知る。健全なる発展を願えばこその一念において右の拙文を記した次第。（投稿・写真＝今年の全日本総合・大崎電気対日体大＝も光島氏提供）

★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

藤本強
杉山茂

ソ連・西ドイツが優勝
―世界選手権をリーグ戦としてみる―

第7回世界選手権大会もルーマニアの優勝でおわったが、本誌にもすでに触れたように大会方式の再検討を迫る声が、ヨーロッパには拡っている。

この大会方式はＩＨＦの世界選手権規定によっているのであるがこの規定は現実にそぐわないとしている。ＩＨＦの総会でも種々の意見が出た。

この大会方式の再検討を迫る声の裏には、一度の試合の運、不運が現在のままではいかにも重くひびきすぎるという所からでている

ドイツ連邦共和国の「週刊ハンドボール」でもこの問題を大きくとりあげている。

それにはこの大会を通じて、ただの一敗しかしていないドイツ連邦共和国が5位、ソ連が9位、しかも延長戦（注、準々決勝で西ドイツは東ドイツに延長戦の末敗れている）がなければ一度も負けていない西ドイツが5位というのはどうみてもおかしいとするものであり、この中には大会方式を検討するとともに自国がいかに良く戦ったかというナショナリズムが濃厚におっていることは否定できない。

しかしながら、矛盾しているといえば、今回の大会方式確に正当でない面も多い。もっとも、こういう大会方式だからこそ、息を抜いたのだ、対戦相手の問題があろうとの逆の議論もあろうが、そういったことには眼をつぶって今回の大会の成績を考えるならば1位のルーマニアの5勝1敗は良いとして2位のドイツ民主々義共和国が4勝2敗（延長戦なしならば3勝1敗2分）、3位ユーゴが3勝2敗1分、4位デンマークが3勝3敗と2～4位までの国々はすべて延長戦なしで考えるならば3勝しかしていない。これは我が国の3勝2敗1分と大して変りないどころがデンマークより我が国は上に行くことになる。

同様に6位スウェーデン3勝3敗、7位チェコ4勝2敗、8位ハンガリー3勝3敗という成績になる。

9位以下の国々では、ソ連の5勝1敗、日本の3勝2敗1分、アイスランドの2勝4敗、フランスの1勝5敗と続くことになる。

ここでやはり大きな矛盾として浮びあがってくるのは、ベストエイト入りを逃したソ連と日本の問題が一つと、準々決勝で敗れた西ドイツとチェコの問題であろう。

更に問題を複雑にしているのは、予選リーグで2位の国々がすべてベストフォア入りをしたことである。一つの試合を捨てるということは、現実の大会で好コンディションで上位を望もうとするものにとつては、必要悪かもしれないがスポーツの原則であるフェア・プレーの精神からいつたら、正にとんでもないことである。

こういったことから大会方式の改善を望むのは邪道かもしれないが、大会方式を改善することによって、こうした混乱が防げるならそれをするにこしたことはない。

結局、問題点として浮かびあがるのは予選リーグで上位2チームを選ぶこと、ここに問題はしぼられよう。しかし、ＩＨＦでの総会では、もっぱら上位8チームの順位を決めることに焦点がしぼられていた。結局結論としては、予選、準決勝リーグ方式におちついたが予選で上位2チームをいかにして選ぶかの問題はそのまま残されている。

第7回世界選手権総成績

	勝	敗	分	得	失	順位
ルーマニア	5	1	0	94	68	2
東ドイツ	4	2	0	79	73	5
ユーゴ	3	2	1	119	80	6
デンマーク	3	3	0	103	116	10
西ドイツ	5	1	0	88	81	3
スウェーデン	3	3	0	69	68	9
チェコ	4	2	0	106	77	4
ハンガリー	3	3	0	95	84	8
ソ連	5	1	0	105	73	1
日本	3	2	1	101	111	7
アイスランド	2	4	0	96	112	11
フランス	1	5	0	79	105	12
スイス	0	3	0	29	48	15
ポーランド	0	3	0	43	59	14
ノルウェー	0	3	0	23	28	13
アメリカ	0	3	0	32	78	16

（延長戦なし）

	勝	敗	分	得	失	順位
ルーマニア	4	1	1	91	66	3
東ドイツ	3	1	2	75	69	5
ユーゴ	3	2	1	119	80	6
デンマーク	3	3	0	103	116	10
西ドイツ	5	0	1	87	79	1
スウェーデン	3	3	0	69	68	9
チェコ	4	2	0	106	77	4
ハンガリー	3	3	0	95	84	8
ソ連	5	1	0	105	73	2
日本	3	2	1	101	111	7
アイスランド	2	4	0	93	112	11
フランス	1	5	0	79	105	12

（順位はリーグ戦として見た場合のもの）

女子で東独の快調つづく

ザグレブ杯（前号既報）につづいてユーゴ協会はこのほど女子国際リーグを行った。結果は東ドイツ（A）がこの大会でも安定した攻守で予選リーグ、決勝を勝ち進み優勝を遂げた。

▽予選リーグA組
ユーゴ 20—8 ブルガリア
チェコ 11—8 東ドイツB
ブルガリア 16—8 東ドイツB
ユーゴ 10(分)10 チェコ
チェコ 14—6 ブルガリア
ユーゴ 15—12 東ドイツB

▽同B組
東ドイツA 16—6 ポーランド
デンマーク 9—8 ルーマニア
ポーランド 15—14 ルーマニア
東ドイツA 17—13 デンマーク
デンマーク 17—14 ポーランド
東ドイツA 14—12 ルーマニア

▽7位決定戦
ルーマニア 13—10 東ドイツB

▽5位決定戦
ポーランド 13—12 ブルガリア

▽3位決定戦
チェコ 14—9 デンマーク

▽決勝
東ドイツA 9—6 ユーゴ

世界の競技人口は214万

国際ハンドボール連盟（IHF）はこのほど一九七〇年九月現在の加盟国競技人口を発表した。

これは3年に一度調査されるもので、今回の報告によると世界のハンドボール競技人口は約百五万六千人（男女計）、ジュニア（男女）の約百八万人を加えるとその総人口は約二百十四万人ということになる。

6年前の発表（本誌第19号参照）によると総計百五十四万人で、約六十万人の増加といえる。

チーム総数は約十万五千（このうち五万五千がジュニア）6年前の数字は約八万八千。

今回の発表には韓国、シリアなど数ケ国と一部の国は学生競技者の数字を含んでいないため、総計は若干上廻るものとみられるが、いずれにせよ、世界ハンドボール界は着実な〝伸び〟をみせているといってよい。

注目されるのはジュニアの急激な増加。

年少層対策がゆきとどいているスペイン、オランダ、イタリアがジュニア部門で各国と肩を並べているのが目立つ。逆に日本は各部門でベスト・テンに入りながらこの部門だけ17位とふるわない。

なお、日本の数字は日本協会が今年度の正式登録者にこだわらず全国の未登録者をも推定した概数を報告したため前号で本誌が報じた「昭和45年度日本協会登録者数」とは食いちがう。

男子競技者数

ソビエト	349000
西ドイツ	195000
フランス	50239
東ドイツ	47000
日本	45000
ユーゴスラヴィア	27490
スウェーデン	26400
デンマーク	24552
スイス	17500
ハンガリー	13565
世界計	871585

女子競技者数

西ドイツ	40000
ソビエト	21000
東ドイツ	15000
日本	15000
デンマーク	14392
ユーゴスラヴィア	12105
スウェーデン	11200
ハンガリー	11185
ルーマニア	11000
フランス	8536
世界計	194550

男子チーム数

西ドイツ	12361
ソビエト	8580
スウェーデン	2360
東ドイツ	2056
デンマーク	1780
日本	1500
ハンガリー	1152
ユーゴスラヴィア	1080
スイス	1000
フランス	850
世界計	37349

女子チーム数

西ドイツ	3226
ソビエト	1400
東ドイツ	1000
スウェーデン	1020
ハンガリー	979
デンマーク	957
オランダ	740
ルーマニア	550
ユーゴスラヴィア	512
日本	500
世界計	12308

ジュニアチーム数（男女計）

西ドイツ	17430
ソビエト	10350
スペイン	6368
東ドイツ	3780
イタリア	3581
デンマーク	3055
オランダ	1780
ハンガリー	1452
ルーマニア	990
チェコスロバキア	850
日本	400
世界計	55891

（ジュニア男女競技者数1080329）

台湾、韓国の交流促進

台湾協会宋内堂副理事長から日本協会宮崎常務理事へ届けられた連絡によると台湾小学校チーム（男女）が本年10月に韓国協会の招きで韓国へ遠征することに決まったということである。

8月末、韓国協会役員の朴氏が訪台したのをきっかけとして両国の交流が急速に進んだもので、小学校のほか中学高校の交歓もなるべく早い時期に実現する予定だ。

台湾協会は日本・韓国との三国対抗を強く要望しており、このままの状態が進めば、台・韓交流に日本があとから加わるということにもなりそうだ。

また、ホンコン大学でハンドボールに着手する動きがあり、同大学関係者の話からフィリピン、マレーシア、インドネシアなどでもハンドボールの種が蒔かれはじめているのが判った。

なお、台湾は9月のIHF総会でIHF仮加盟国に承認された。

新連載・コーチシンポジュームから ①

二つのコーチ会議に出席して

竹野奉昭
（オリンピック対策部委員）

ユーゴーは楽しさ一ぱい（写真はそのスナップ）

去る7月12日に日本を出発しユーゴのカトラで行なわれたハンドボールスクールとスウェーデンで行なわれた第二回コーチシンポジウムに出席してきました。

ユーゴのハンドボールスクールは12回にわたりユーゴ協会の主催で毎年開かれているものであり場所はアドリア海の有名な海水浴場カトラですので、かなりノンビリとしたものでした。

ここには各国からコーチ連が集まり、その多くは婦人同伴で車でやってきて、夏の数日を南の陽光のもとの海水浴場で過すという形のハンドボールスクールとはいうが、バカンスの色彩もかなり強くもっている形のもので、午前中二時間半の講議がおわると、長い昼休みがあり、午睡に、水泳に各自が時を過し、夕刻にまた講議と実技という内容でした。毎年これに参加しているコーチもかなりありこれらの人々は或いは国際試合であるいはこういった形の会議でよく顔を合している顔なじみが多くふんいきはワキアイアイという言葉がピタリでした。

こういうふんいきですから、すぐにハンドボールのトーナメントが始められ、それに参加者がそれぞれにチームを作って参加し、カトラ杯を争う。互いに好きな道のこととて、自由なプレーを楽しむこともあるという厳しさよりも楽しさが先にたつものでした。

とは云っても、これには、西ドイツのトルカ氏（かって西ドイツチームが来日した時の監督）、ルーマニアのネデフ氏（一九六八年来日）などの著名なコーチがそれぞれの得意の分野を語り、討論するという形がとられていたので、かなり参考になる事項はありました。またチェコのケーニッヒ、スウェーデンのマトソンなども姿を見せていました。



この催しはすでに回を重ね、参加者も年々多くなっています。本年の参加者は372名、内ユーゴ以外の国からは、アルジェリア2、オーストリア5、ベルギー2、ブルガリア2、デンマーク4、フランス4、オランダ10、イタリー16、日本2、カメルーン1、コンゴ・キンシャサ4、クエイト1、レバノン5、リビア26、ハンガリー1、東ドイツ1、ノルウェー2、ポーランド1、ルーマニア3、西ドイツ38、スペイン14、スウェーデン4、スイス47、アラブ連合4の24ケ国199人と地元ユーゴから173人が参加しました。近隣の諸国から多数の参加者を見ています。

内容は攻防両面にわたるものが多く、後述のIHFのシンポジウムがハンドボールの理念追求のためにディフェンスを洗練するという大目標を掲げているのとはすこぶる対照的でした。

IHFのシンポジウムはディフェンスのみに終始

続いて、田村紡の鈴木義男氏と終始行動を共にしながら、出席したIHF主催のコーチシンポジウムは厳しいものが一本とおったものでした。8月3日から8日までの日程はギッシリとつまっており

それこそ各国のトップレベルにある人々が全精力を傾けて、講演しそれを基にして参加者が討論するというもので、ここではもっぱらディフェンスの洗練に話題が集中し、12の発表があった中で、ルーマニアのクンスト氏のハンドボールの戦術・技術のシステム化とフランスのラコー氏の第7回世界選手権のコンピューターによる分析を除くとすべてディフェンスの問題をとり扱ったものでした。

このシンポジウムには、IHFの会長ハンス・バウマン氏、会計理事マックス、リンケンバーガー氏、スウェーデンからのIHF理事、ポール・ヘーグベルグ氏競技委員長エミール・ホルル氏をはじめとする競技委員7名全員が出席し、報告者は11人、この他にアルジェリア2、ベルギー1、デンマーク3、西ドイツ2、東ドイツ3、フィンランド2、オランダ2アイスランド3、イスラエル3、日本2、モロッコ1、ノルウェー2、オーストリア3、ポーランド1、スウェーデンス5、ペイン2ソ連1、ハンガリー2、アメリカ1の22ケ国からの参加を見ました。ユーゴのハンドボールスクールに比べると少人数でしたので、よりつっこんだ討論、内容の濃い話の内容でした。集っているのは各国のトップレベルの中のトップレベルの人々ばかり、しかもコーチ専門にやっている人々だけの集りでした。

以下に発表者と題名を初挙してみましょう。

ハンドボールシンポジウムの目的と意義、エミール・ホルル（スイス）

第7回男子7人制ハンドボール世界選手権のコンピューターによる分析、ジャン・ピエール・ラコー（フランス）

マン・ツウ・マンディフェンスについてベルナー・ビッグ（西ドイツ）

6：0防御について、ジャニス・グリンベルガス（ソ連）

5：1防御についてイリスラフ・ドルネク（ユーゴ）

4：2防御についてベルント・クッヘンベッカー（西ドイツ）

3：2：1防御についてフラド・ステンツエル（ユーゴ）

複合防御（マンツウマンとゾーン）についてニコライ・ネデフ（ルーマニア）

現代ハンドボールの様相、特にディフェンスについて、エミール・ホルル

ディフェンス強化のための練習教化方法について、ジャロスラフ・ムラーツ（チェコ）

ディフェンスに於けるキーパーとフィールドプレーヤーの連系について、ローランド・マトソン（スウェーデン）

ハンドボールの攻守戦術・技術のシステム化について、イオン・クンスト（ルーマニア）

以上の概要は次号から本誌に掲載していく予定にしていますが、これらすべてに共通しているのはディフェンスの粗暴化についての危機感が全部の発表に満ち満ちているということです。

これは初めにエミール・ホルル氏が新聞論調（本誌にも概要所収）を引き、このままではハンドボールはすたれる。ディフェンスの粗暴化の最大の原因はルールにあるのではなく、レフェリーにあるのでもなく、まさに、プレーヤーとそれを導くべきコーチにあるとしています。選手がルールを守るというスポーツにとって最低の基本を守らぬ以上これ以上の発展は望めないし、むしろ衰退があるだけだとし、コーチ、選手をいましめています。

そして単に体だけでなく、心もモラルも向上しなければ真のスポーツとは云えないし、人類文化という観点にたってもハンドボールをやることが無意味になるとしています。ハンドボールは人間の文化の一部を形成するような形にならなければナンセンスだというようなことを述べ、更なる身心モラルの三調子揃った発展を望んでいます。

クンスト氏とラコー氏はある共通性をもっています。クンスト氏はハンドボールのすべてのプレーを数字で現わす形をとろうとしているのです。

またラコー氏はこの二月の世界選手権の予選と1〜8位決定戦に至る全記録を一試合14人で記録したデータをコンピューターに入れ種々の分析を試みています。このデータはデータとして、このコンピューターに試合の記録を記憶させておくことは、今後非常に大きな意味をもってきましょう。

現在フランス協会が作りあげたデーターからだけでも、世界選手権に出場した選手のクセはかなり詳細に知ることができる。ある選手はこの位置から、ゴールのどの隅に投げることが多いかというような質問にも簡単に答えてくれるし逆にディフェンスの穴がどこかというような分析にも使うことができる。今後このような種々の情報をコンピューターに入れ、徹底的な情報収集がなされるであろうことは確かでしょう。

後はいかにディフェンス技術を、あげ、戦術を効果的に使うかということに論題は絞られています。

国内でも、種々問題がありますし、国内ではすぐにレフェリー云々になりますが、それよりも前にフェアプレーに反することはしないというモラルが確立されることを望むものです。

ハンドボールの歩み（第22回）

ルーマニア・東ドイツが好成績

――ヨーロツパ杯の総合成績――

優勝回数は西ドイツとソ連

—男子—　　—女子—

ヨーロッパカップ編 ⑫

男子は過去10回の大会に24ヶ国から、数多くのチームが参加し戦っている。その試合の結果を総集すると次頁の表になる。この表は勝ち数の多い順に、云いかえるならば勝ち点の多い順にならんでいる。（第9回大会までの結果）

ルーマニアがディナモ、ステアウァなどの活躍で、ドイツ連邦共和国はFAゲッピンゲン、VfLの活躍で、またチェコはデュクラ・プラーグの活躍で多くの勝ち星を挙げている。特にチェコでは、第一回にプラーグ市の選抜が3勝を挙げているので、この都市対抗時代の3勝を除くと、すべて、デュクラの成績ということになる。

デンマークは色々のチームが勝ち星をあげている。ドイツ民主共和国も勝ち星は少ないが勝率では抜群の成績を残している。

この勝ち数の上位8ケ国はすなわち第7回世界選手権のベスト・エイトという形になっているのは偶然であろうか、

また勝率が50パーセントを越えている国々はドイツ民主主義共和国、ルーマニア……ソ連、スウェーデンに至る9ケ国で、これは勝ち数上位8ケ国にソ連を加えた国ということになり、今日のトップレベルの国々になっている。

このことは、クラブ対抗のヨーロッパ杯においても、各国のレベルはずばり出ていることが云える一発勝負の世界選手権と、国内のリーグを戦い抜いて、二回戦方式で勝ち進むヨーロッパ杯でも同様の成績が残っていることは興味深い。

優勝チームはドイツ連邦が一番多く、4度、ついでルーマニア、チェコの2度。なお、ナショナルチームで、これら上位のチームに次ぐと目される諸国がやはり、ヨーロッパカップの成績でもそれにつぐ成績を残しているのも興味深い事実である。

チーム別に見ると、デュクラの20勝は群をぬいている。先にも触れたようにチェコの勝をこのクラブだけで独走しているのであるから、いかに傑出したチームであるかが判ろう。

これについでディナモ・ブカレスト、この両チームはクラブとしてはもっとも名高いチームであるこれについで、二度の優勝でなるFA・ゲッピンゲン、VfLそれにDHfKと古豪チームが続く。

勝率では、ステアウアが傑出している。このチームはこの表では第9回大会に初登場し、そのまま勝ちをさらった記録のみがでている。ここでも勝率5割をこえているのは、ほとんどがベスト・エイトの国々のチームである。

一方女子は、表は作りえなかったが、ソ連の優位は動かし難い。9回の大会のうえ、4回を快勝しており、これにつぐのが、ルーマニアの2回である。これとともに1度優勝し、3度決勝に進出しているドイツ民主共和国の強さも忘れてはならない所だ。

・女子8回大会記録（予選）

SZ・オルムース（チェコ）	8－6　5－5	ソフィア大（ブルガリア）
C・クラコウ（ポーランド）	20－9　28－9	マルセーユ大（フランス）
ラピッド・ブカレスト（ルーマニア）	記録不明	IB・ブランダール（デンマーク）
エンポール・ロストク（東ドイツ）	7－4　10－5	KF・ブダペスト（ハンガリー）

これでヨーロッパカップ編を終了することにします。要領よくまとめるつもりでしたがついつい長くなってしまいました。

このあと数度にわたって、大会と離れたハンドボールの歩みを見て、この連載を閉じることにしたいと思っています（藤本強）



ヨーロッパ杯をもつDHfK

年次優勝チーム

	男子	女子
1957	プラーグ選抜	――
1959	RIK・ゲーテボルグ	――
1960	FAゲッピンゲン	――
1961	――	スチインタ・ブカレスト
1962	FAゲッピンゲン	スパルタク・プラーグ
1963	デュクラ・プラーグ	ツルド・モスコー
1964	――	ラピッド・ブカレスト
1965	ディナモ・ブカレスト	HGコペンハーゲン
1966	DHfK・ライプチッヒ	SC・エンポール・ライプチッヒ
1967	VfL・グンメルスバッハ	シャルジリス・カウナス
1968	ステアウア・ブカレスト	シャルジリス・カウナス
1970	VfL・グンメルスバッハ	スパルタク・キエフ

男　子

国　別　勝　敗　表

	試合数	勝	分	敗	総得点	総失点	勝率	勝率
ルーマニア	34	23	1	10	565	432	69.2	②
ドイツ連邦	36	23	1	12	673	487	65.4	⑤
チェコ	35	23	0	12	655	509	65.7	④
デンマーク	31	21	0	10	610	507	67.8	③
ユーゴー	35	20	1	14	630	537	61.5	⑥
ドイツ民主	26	19	0	7	508	384	73.1	①
スウェーデン	25	14	0	11	472	480	56.0	⑨
ハンガリー	19	11	0	8	379	336	57.9	⑧
フランス	22	10	0	12	346	391	45.5	⑩
スイス	21	9	1	11	331	376	45.2	⑪
スペイン	19	8	0	11	341	365	42.1	⑫
ソ　連	12	7	0	5	236	197	58.3	⑦
オランダ	17	6	1	10	282	299	38.2	⑭
ポーランド	15	4	2	9	210	290	33.3	⑮
ノルウェー	14	4	0	10	231	264	28.6	⑰
アイスランド	9	3	1	5	133	171	38.9	⑬
ポルトガル	11	3	0	8	160	202	27.3	⑱
ベルギー	14	2	1	11	168	322	17.9	⑲
ブルガリア	6	2	0	4	87	202	33.3	⑯
オーストリー	10	1	1	8	126	215	15.0	⑳
フインランド	9	1	0	8	167	238	11.1	㉑
ルクセンブルグ	13	1	0	12	161	322	7.7	㉒
モロッコ	2	0	0	2	13	28	0.0	㉓
イスラエル	2	0	0	2	19	38	0.0	㉓

男　子

チ　ー　ム　別　勝　敗　表

チーム名	試合数	勝	分	敗	総得点	総失点	勝率
デュクラ・プラーグ	32	20	0	12	583	451	62.5
ディナモ・ブカレスト	25	16	1	8	394	311	66.0
FA・ゲッピンゲン	17	13	0	4	318	212	76.5
DHfK・ライプチッヒ	16	13	0	3	279	215	81.3
ホンベット・ブダペスト	18	11	0	7	368	312	61.1
パルチザン・ブジェロバール	13	9	1	3	270	192	73.0
VfL・グンメルスバッハ	13	8	1	4	253	186	65.4
メドベスカク・ザグレブ	13	8	0	5	211	182	61.5
レドベルグリッド・ゲーテボルグ	14	8	0	6	247	253	57.2
グラスホッパーズ・チューリッヒ	14	7	0	7	205	225	50.0
ステアウア・ブカレスト	7	6	0	1	139	85	85.8
デイナモ・東ベルリン	8	6	0	2	203	137	75.0
グラノラース・バルセロナ	11	6	0	5	228	232	54.5
KFUM・アールフス	6	5	0	1	97	75	83.3
AGF・アールフス	7	5	0	2	132	104	71.4
US・イーブリー・パリ	8	5	0	3	146	135	62.5
ツルド・モスコー	6	4	0	2	116	95	66.7
フレデンスボルグ・オスロー	11	4	0	7	185	196	36.4
スコブバツケン・アールフス	5	3	0	2	104	78	60.0
アジャックス・コペーハーゲン	5	3	0	2	114	94	60.0

球界パトロール

L・トルカさん，ひよっこり



○…全日本総合（8月18日～22日）の開かれている和歌山県打田町に珍しいお客さまが姿を見せた。3年前、西ドイツ選抜の一員として来日、タフなプレーを見せたロタール・トルカ（二八）さんでトルカさんは前の来日時と同よう現在もハンブルク市警察に勤めているが、休暇を利用して万国博見物と観光を目的に再び日本を訪れたもの。

○…トルカさんは、前回の来日で日本のハンドボール関係者とすっかり顔なじみになり、帰国後も文通などで〃親善〃の実を大きく育てている。

勤務のかたわらハンブルグのポリッァイ・ハンブルグで相変らず元気なプレーをつずけているそうだが、父親のヘルムト・トルカさんも西ドイツの女子ナショナルチームのヘッドコーチで健在、忙しい毎日を送っているという。

○…打田町には2日間の滞在で準決勝、決勝戦を熱心に観戦していたが『自分たちが来日した時より日本のハンドボールはいっそう巧くなった。しかしまだまだディフェンスが下手で研究の余地があるように思う。特にゴールエリア周辺の防禦法には欠点が目につく』と若者らしい卒直な感想を述べた。

また『粗暴なプレーが多いのはなにも日本だけのことではないが日本の場合はレフェリーの責任が充分に果されていないのも一因だ』と父親ゆずりのズバリとした意見をもらしていた。

○…最終日の前夜、女子の優勝戦大洋デパート対大崎電気戦の予想に話がはずんだ時、彼は「10－4で大洋」とみたて、翌日わずか1点ちがいのスコアで大洋が勝ったのをみて友人たちが「何を根拠に…」と聞くと『僕は日本通だよ』と片目をつぶってみせるなど彼にとっては最高にゴキゲンな〃日本の休日〃だったようだ。

大会後、大阪で光島磯雄さんや東京で安藤純光さんなどといっそうの親交をあたため月末、元気に帰国した。外国選手が遠征で得た日本のよさを再び味いに来てくれるというのはなんとも嬉しい話である……。（磯）

【写真はワクナガ薬品・木野選手と記念撮影で並ぶL・トルカさん】

各地の記録

東京重機の初優勝成る

第17回関東選手権は8月29、30の両日、栃木市に8県の代表チームが参加して行われた。

男女ともトーナメントで優勝が争われ、男子は全日本チャンピオン・大崎電気（埼玉）が危気なく勝ち進んで第7回（昭35）以来11年連続タイトルを手にした。

女子は実業団、クラブの実力差がれきぜん、決勝は東京重機（東京）—大崎電気（埼玉）の顔合せとなり、重機が前半鋭い攻撃で5点差をつけ大崎の追撃を振り切った。

東京重機の優勝は初、4月の関東実業団（横浜）につぐタイトル獲得だが、この時は同チーム以外に出場者がなく、実質的な〝関東制覇〟は今回が初めてである。なお女子で東京代表が優勝したのは、第9回（昭37）の日体大以来8年ぶり8度目。

▽男子1回戦

大崎電気（埼玉） 17（8—5 9—6）11 東京スターズ

全神奈川 23（9—12 14—10）20 AOK栃木

光電工業（群馬） 18（10—7 8—7）14 塩山ク（山梨）

千代田印刷機製造（千葉） 18（7—8 11—5）13 日立製作所（茨城）

▽同準決勝

大崎電気 26（14—1 12—6）7 全神奈川

光電工業 18（9—10 9—7）17 千代田印刷機製造

▽同決勝

大崎電気 27（12—6 15—11）17 光電工業

【光電】	得		【大崎】	得
須貝	0	GK	下里	0
阿久沢	0	GK		
永井	1	FP	村西	4
今井	2	FP	近藤	2
松井	0	FP	籏野	1
落合	5	FP	東	6
飯野	4	FP	谷口	4
刈谷	0	FP	佐藤	2
田中	5	FP	林	6
佐藤	0	FP	沢田	0
武内	0	FP	井上	2

（審・田中 大塚）

27（1） 7MT （1）17

▽女子1回戦

東京重機（東京） 15（6—4 9—5）9 栃女ク（栃木）

日本ビクター（茨城） 14（7—3 7—3）6 前橋ピジョンズ（群馬）

佐原女子ク（千葉） 14（5—8 9—5）13 甲府二高OG（山梨）

大崎電気（埼玉） 38（18—2 20—0）2 全神奈川

▽同準決勝

東京重機 15（9—2 6—2）4 日本ビクター

大崎電気 40（19—0 21—0）0 佐原女子ク

▽同決勝

東京重機 12（6—1 6—6）7 大崎電気

【大崎】	得		【重機】	得
和田	0	GK	長岡	0
小堀	0	GK	川本	0
木幡	4	FP	滝口	2
新島	1	FP	長谷川	1
寺尾	0	FP	鷺谷	1
三浦	2	FP	牧野	4
長谷川	0	FP	村上	3
佐藤	0	FP	古佐原	1
岩井	0	FP	市川	0
		FP	蜷川	0
		FP	市塚	0

（審・永山 山内）

12（0） 7MT （0）7

全愛知が2連勝飾る

女子は田村紡が3年連続

第22回東海選手権は9月5、6の両日岐阜市の西工グランドに東海4県の予選勝者が集って行われた。

男子は野田、藤中、戸谷、GK柳川の大同製鋼勢に松浦、安藤らを加えた全愛知が秀れた攻撃力で勝ち抜き2連勝（3度目）した。愛知代表の優勝は2年連続18度目である。

女子は実業団三強と新進・二俣ク（静岡）がリーグ戦で争い、田村紡（三重）が混戦を切り抜け3年連続6度目の優勝をとげた。

▽男子準決勝（＝1回戦）

全愛知 25（10—5 15—6）11 本田技研（三重）

常盤工業（岐阜） 17（8—4 9—8）12 清商ク（静岡）

▽同3位決定戦

本田技研 13（8—5 5—2）7 清商ク

▽同決勝

全愛知 24（12—6 12—9）15 常盤工業

▽女子リーグ

大洋紡（岐阜） 18（2—0 16—0）0 二俣ク（静岡）

田村紡（三重） 9（4—0 5—7）7 ブラザー工業（愛知）

ブラザー工業 31（18—0 13—1）1 二俣ク

田村紡 16（8—4 8—6）10 大洋紡

田村紡 22（13—3 9—2）5 二俣ク

ブラザー工業 7（2—1 5—0）1 大洋紡

【順位】①田村紡3戦全勝②ブラザー工業2勝1敗③大洋紡1勝2敗④二俣ク3敗

大同製鋼、辛くも勝つ

▼第12回名古屋市民スポーツ祭ハンドボール（8月・名古屋）

▽一般男子準々決勝

大江ク 18—10 南山ク

大同製鋼 20—12 若宮ク

名大ク 13—8 ブラザー工業

名城ク 26—15 パイロットインキ

▽同準決勝

大同製鋼 12—7 大江ク

名城ク 16—15 名大ク

▽同決勝

大同製鋼 15（7—9 8—5）14 名城ク

▽同女子決勝

ブラザー工業 17（9—4 8—0）4 すみれク

▽高校男子準決勝

中京 9—6 桜台

松蔭 9—4 東山

▽同決勝

中京 8（2—1 6—2）3 松蔭

▽同女子準決勝

高蔵女商 9—3 愛知商

名古屋女商 12—4 若宮

▽同決勝

高蔵女商 13（4—1 9—1）2 名古屋女商

第25回国体予選記録

（9月11日迄に報告分のみ）

◇青森県

▽高校男子予選リーグ

青森 14—11 七戸

青森商 15—7 三本木

青森 13（分）13 柏木農

七戸 18—11 柏木農

▽同決勝

青森 12—10 青森商

▽同女子予選リーグ

青森西 26—2 光星学院

三本木 11—8 七戸

青森西 14—0 七戸

三本木 12—2 光星学院

七戸 8—6 光星学院

▽同決勝

青森西 23—4 三本木

▽一般男子決勝

青森マツダ 23—11 青森商OB

◇茨城県

▽一般男子準決勝

新治ク 19—11 原子力研究所

日立製作所 15—12 自衛隊勝田
▽同決勝
日立製作所 22—21 新治ク

◇大阪府
▽一般男子準々決勝
かつらぎク 31—16 美津濃
大商ク 棄権 三国丘ク
佐野工ク 45—5 西野田ク
ワクナガ薬品 46—12 大阪ガス
▽同準決勝
ワクナガ薬品 28—12 佐野工ク
かつらぎク 25—18 大商ク
▽同決勝
ワクナガ薬品 49—7 かつらぎク
▽同女子決勝リーグ
大阪スターズ 14—9 大谷ク
大阪スターズ 16—8 寝屋川ク
寝屋川ク 18—10 大谷ク

◇広島県
▽一般男子準々決勝
日本鋼管福山 15—13 広商大OB
日新製鋼呉 放棄試合 盈進ク
三菱レ大竹 不戦勝 呉造船
修道ク 27—8 三原工OB
▽同準決勝
日新製鋼呉 29—11 日本鋼管福山
三菱レ大竹 16—12 修道ク
▽同決勝
日新製鋼呉 18—14 三菱レ大竹

◇長崎県
▽高校男子1回戦（2試合）
長崎工 34—7 西海学園
鹿町工 19—14 佐世保市商
▽同準決勝
長崎工 8（分）8 佐世保北
抽せんで長崎工の勝ち
口加 16—10 鹿町工
▽同決勝
口加 19—8 長崎工
▽同女子1回戦（1試合）
佐世保市商 7—5 長崎北
▽同準決勝
島原農 13—3 佐世保北
佐世保商 40—3 佐世保市商
▽同決勝
佐世保商 5—3 島原農

◇香川県
▽高校男子準々決勝
三本松 12—6 高松商
高松南 16—6 土庄
工芸 24—8 坂出工
多渡津工 14—9 丸亀
▽同準決勝
高松南 12—5 三本松
工芸 、20—15 多渡津工
▽同決勝
工芸 22—8 高松南
▽同女子準決勝
高松女商 8—6 高松南
三本松 16—4 高松一
▽同決勝
三本松 10—4 高松女商
▽一般男子決勝
高松ク 22—8 常盤ク

ブロック高校選手権

◇第17回東海高校
◇6月27・28日 ◇豊橋市 ◇参加男8校、女8校
▼男子1回戦 静岡農（静岡）10—9桜台(愛知) 加納（岐阜）22—7四日市工（三重）、岐阜南（岐阜）12—10清水商（静岡）、松蔭22—3津工（三重）
▽同準決勝
加納 12—6 静岡農
松蔭 8—6 岐阜南
▽同3位決定戦
岐阜南 7—5 静岡農
▽同決勝
松蔭 15（6—2 9—5）7 加納
▼女子1回戦 清水西（静岡）10—5名古屋女商（愛知）静岡城北（静岡）11—1四日市（三重）、大垣南（岐阜）8—4高蔵女商（愛知）、益田（岐阜）11—5津女子（三重）
▽同準決勝
静岡城北 6—2 大垣南
清水西 4—2 益田
▽同3位決定戦
大垣南 6—0 益田
▽同決勝
静岡城北 5（3—3 2—1）4 清水西

◇第20回九州高校 ◇7月23、24日 ◇福岡市 ◇参加男15校女16校
▼男子1回戦 財部(鹿児島)19—17沖縄工（沖縄）、口加（長崎）18—14日南工（宮城）、香椎（福岡）16—14大分東（大分）、鶴崎工(大分）24—9福山（鹿児島）、マリスト（熊本）19—9築紫中央（福岡）、佐世保北（長崎）18—16泉ケ丘（宮崎）、博多工（福岡）14—13熊本工（熊本）。
▽同2回戦 小倉工（福岡）17—8鶴崎工、マリスト13—10、口加佐世保北18—14香椎、財部14—13博多工
▽同準決勝
佐世保北 18—7 財部
小倉工 12—10 マリスト
▽同決勝
佐世保北 13（5—7 8—1）8 小倉工
▼女子1回戦 小禄（沖縄）11—5佐賀女武雄（佐賀）、熊本市立（熊本）8—7大分東（大分）、佐世保商（長崎）9—2泉ケ丘（宮崎）、筑紫女（福岡）14—6純心（鹿児島）、島原農（長崎）12—7九州女（熊本）別府青山（大分）9—3古賀（福岡）、明善（福岡）12（分）12小林商（宮崎）＝抽せんで明善、神崎農（佐賀）14—6財部(鹿児島)
▽同2回戦 熊本市立9—4小禄、佐世保商5—4筑紫女、島原農15—4別府青山、神埼農9—5明善
▽同準決勝
佐世保商 10—3 熊本市立
島原農 13—6 神崎農
▽同決勝
佐世保商 7（5—3 2—3）6 島原農

昭和45年度ブロック高校選手権優勝校

北海道	男	函館東
	女	室蘭商
東北	男	湯沢
	女	秋田和洋
関東	男	中大附属
	女	水海道二
北信越	男	北佐久農
	女	高岡女
東海	男	松蔭
	女	静岡城北
近畿	男	枚方
	女	大谷
中国	男	下関中央工
	女	山陽女
四国	男	新居浜工
	女	新居浜市商
九州	男	佐世保北
	女	佐世保商

編集後記

オリンピック、結局アジア予選という形になりました。来年はこれらの事業がずっとならび、たいへんな年になりそうです

次号にIHF関係の詳報を入れていきたいと思います。竹野オリンピック対策委員から、コーチシンポジウムの原稿をもらい、この後も続けて、連載していきたいと思っています。ディフェンスの問題、光島氏の寄稿にもあるように、ヨーロッパだけでなく、日本でも大きな問題となっています。選手・審判・コーチ等々ハンドボール関係者全員で真剣にとりくんでいかなくてはならない問題です。

（TSF）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第八十号
昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可
昭和四十五年九月二十五日印刷
昭和四十五年十月一日発行
発行所
日本ハンドボール協会
渋谷区神南一ー一ー一
大代表(467)三一一一
東京五八三四八番
編集兼発行人　保坂周助
定価百五十円
(年間購読11回・千二百円)